

下田市スポーツ推進計画(素案)

令和 7 年2月現在
下田市教育委員会

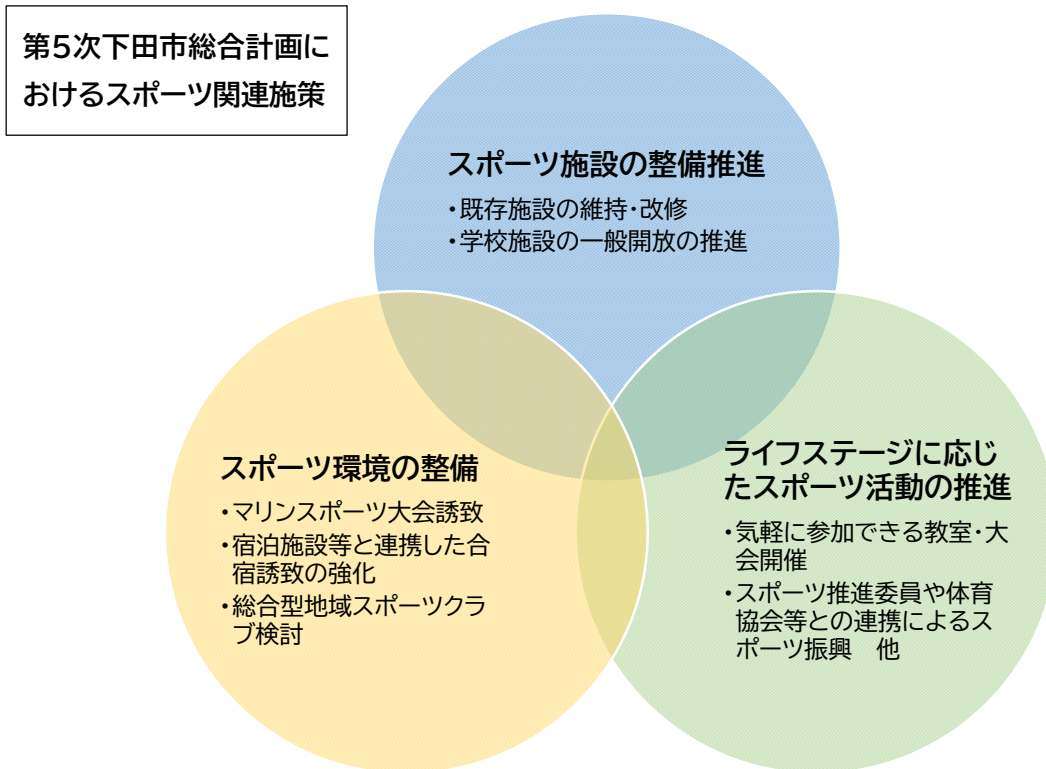
下田市スポーツ推進計画 目次

第1章 策定にあたって.....	1
下田市の現状と課題.....	1
計画策定の趣旨.....	2
計画の性格.....	3
1)国・県の取組について.....	3
2)関連計画との関係性.....	3
3)計画の期間.....	4
第2章 基本的な考え方.....	4
基本理念.....	4
基本目標.....	5
計画の体系図及び重点施策について.....	5
持続可能な開発目標(SDGs)との関係.....	6
第3章 施策の内容.....	7
基本目標1「スポーツ推進のための基盤づくり」に対する施策	7
1)基盤整備.....	7
2)施設整備	7
基本目標2「多様なスポーツの機会の確保」に対する施策.....	10
1)多様なスポーツに触れる機会の創出.....	10
基本目標3 「スポーツによる地域活性化」に対する施策.....	12
1)スポーツツーリズムの推進.....	12
第4章 推進体制と進捗管理について.....	13
(1)推進体制の整備について.....	13
(2)計画の進捗管理について.....	13
(資料編)市民アンケート結果について.....	15
(資料編)市民アンケート結果分析.....	32
(1)スポーツが市民に与える影響についての分析.....	32
(2)マリンスポーツが市民に与える影響についての分析.....	32
(資料編)地域スポーツコミッションについて.....	34
(資料編)地域スポーツコミッションデータ集.....	38
(資料編)計画策定の経過.....	42

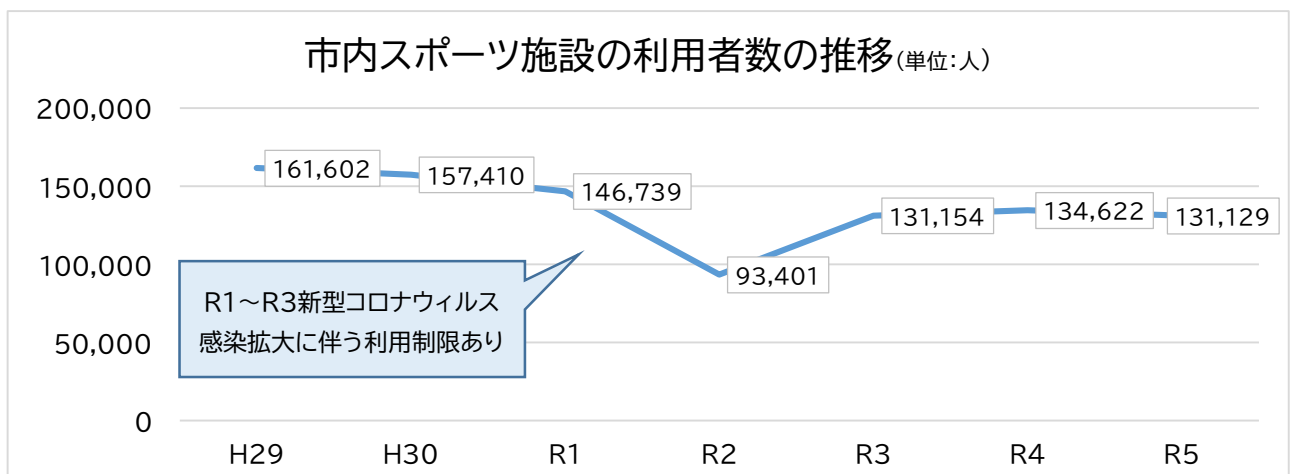
第1章 策定にあたって

下田市の現状と課題

令和3年度から令和12年度までを計画期間とする「第5次下田市総合計画」では、生涯スポーツの振興を施策に掲げ、市民がいつでも気軽にスポーツを楽しむことができる環境整備を目指しており、(1)スポーツ施設の整備推進、(2)ライフステージに応じたスポーツ活動の推進、(3)スポーツ環境の整備といった、三つの具体的な取組目標を設定しています。



しかしながら、コロナ禍の余波や人口減少の影響、サーフィンを活かしたまちづくりに向けた機運の高まり、部活動の地域移行など、当市におけるスポーツ関連の行政課題は、複雑化・多様化が進み、総合計画の目標実現に向けては、行政のみに留まらず様々な関係団体と連携して課題に取り組まなければならない状況になっています。

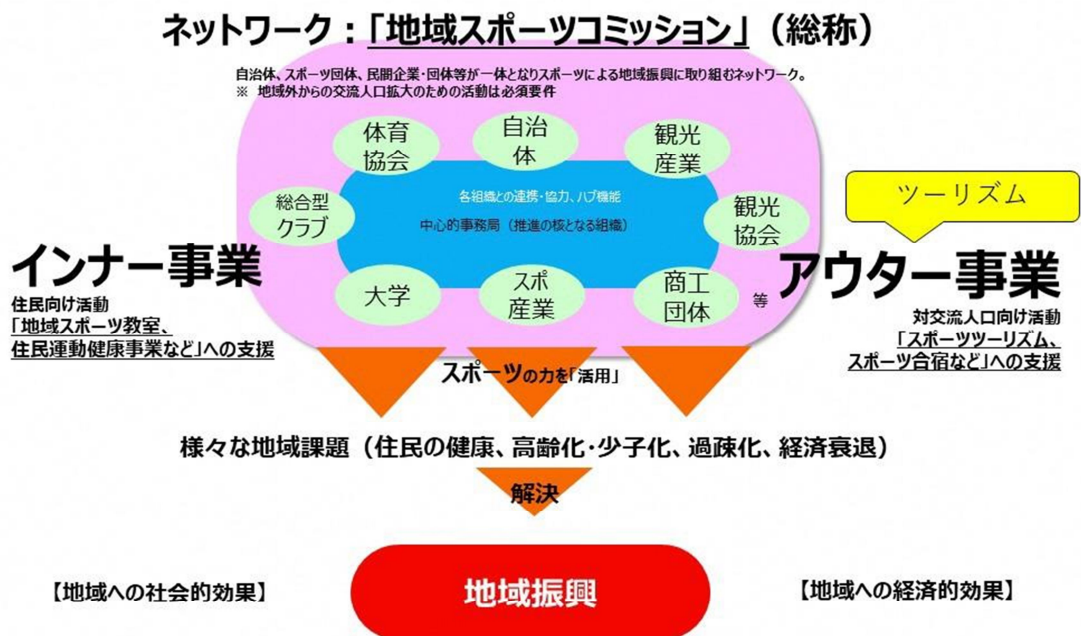


また、近年、スポーツ合宿・大会誘致は全国各地で地方創生に向けた新しい取り組みとして期待が寄せられており、下田市においても総合計画のみならず「第2期下田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「第2次下田市観光まちづくり推進計画」の双方においても施策として掲げられています。

国の「第3期スポーツ基本計画」は、スポーツツーリズムの更なる推進と、その担い手となる「地域スポーツコミッション」の活動支援を具体的施策としており、スポーツによる地方創生を後押しすることで、スポーツ・健康まちづくりに取り組む地方公共団体の割合を増やすことを数値目標として設定しています。

「地域スポーツコミッション」とは、スポーツと地域資源を掛け合わせ、戦略的に活用することでまちづくりや地域活性化につなげる取組を推進する、地方公共団体とスポーツ・観光関係団体などが一体となった組織のことを指し、下田市においても令和5年度に行政と関係団体で組織する「下田市スポーツ合宿・大会等誘致推進協議会」を立ち上げ、今後、下田版スポーツコミッションとして活動するべく準備を進めています。

地域スポーツコミッションのイメージ図(スポーツ庁 HP より)



計画策定の趣旨

スポーツ基本法第10条の規定において、地方公共団体は国の「スポーツ基本計画」を基に、「地方スポーツ推進計画」を定めるよう努めるものとされています。この規定はいわゆる「努力義務」であり、令和6年度の時点で本市においてはスポーツ推進計画は未策定となっていました。

しかし、先述の諸課題の解決及び総合計画の目標実現に向け、市としてのビジョンを示し、関係団体、市民と方針を共有する必要性が生じていることから、この度「下田市スポーツ推進計画」を定めることとしました。

本計画は、国が提唱するインナー事業(スポーツ教室など地域住民向け施策)、アウトター事業(大会・合宿誘致など対外的施策)両面の方針を定めるものであり、主にアウトター施策を促進するための組織である「下田版スポーツコミッション」の運営方針としての性質も兼ね備えています。

計画の性格

1) 国・県の取組について

現在、国の定める「第3期スポーツ基本計画」は、令和4年度から令和8年度までの5年間の計画となっており、第2期計画期間における新型コロナウイルス感染拡大や東京オリンピック・パラリンピック開催等の社会状況の変化を通じて確認された「スポーツの価値」をさらに高めることを目的に、①東京オリンピック・パラリンピックレガシーの継承・発展に向けた施策、②スポーツを「つくる／はぐくむ」など新たな視点を加えた施策、③「スポーツによる地方創生、まちづくり」を含む今後5年間で総合的かつ計画的に取り組む施策という、大きく三つの柱となる施策で構成されています。

また、静岡県は、令和4年度から令和7年度を計画期間とする「静岡県スポーツ推進計画」において、ラグビーW杯及び東京オリンピック・パラリンピックという大規模イベントの終了に伴い、イベント中心の取り組みから日常におけるスポーツ振興への転換を目指し、「スポーツによる健康づくりの推進」、「スポーツ文化の醸成とスポーツを通じた共生社会の実現」、「地域特性を活かしたスポーツによる地域と経済の活性化」の3つの基本方針による「スポーツの聖地づくり」を基本理念とし、施策を推進していくこととしています。

今後も、国・県の動向を注視し、それぞれの計画を参考にしながら、本計画の取組みに反映させます。

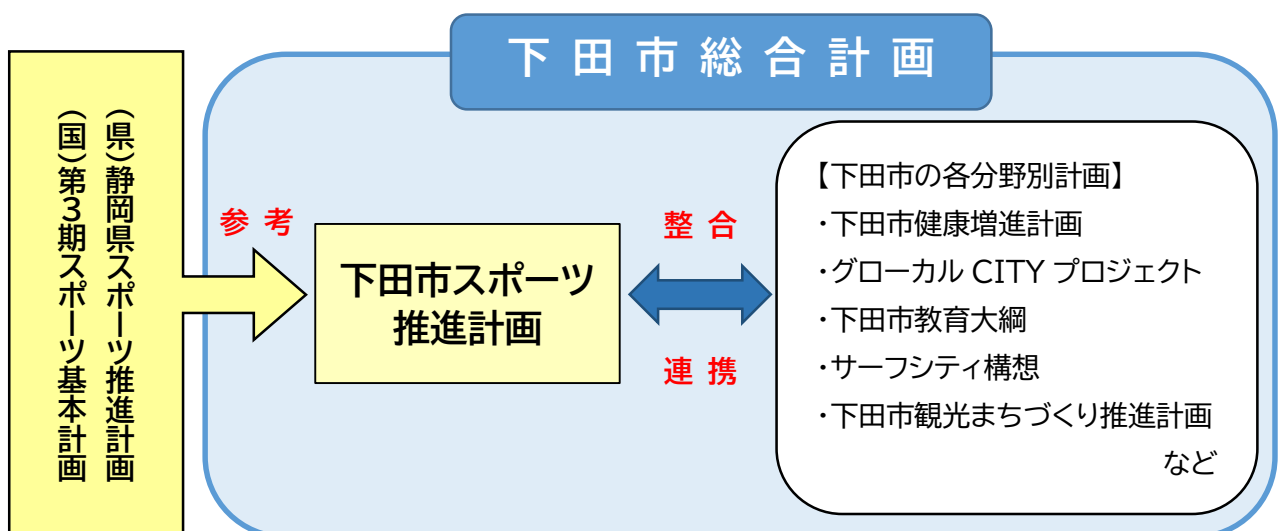
2) 関連計画との関係性

市の上位計画である「下田市総合計画」のほか、関連する各分野別計画との整合性を図ります。

その中でも、特に関連性の高い「下田市健康増進計画」とは一部施策を共有することで、スポーツの重要な役割である市民の健康増進の実現にも繋がります。

スポーツによって人と人との交流を活発にすることや、アウトドアスポーツを通じて地域資源への理解を深めていくことが、現在市が進める「グローバルCITYプロジェクト」における「グローバル人材(人財)」の育成に寄与するように、スポーツは多種多様な分野別計画を繋げ、その効果を高めていくための触媒として、まちづくりにおいて大きな役割を担っています。

【各分野別計画との関係性イメージ】



3)計画の期間

計画期間は、下田市総合計画の期間と合わせるため令和7年度から令和12年度までの6年間とします。

国の第3期スポーツ基本計画が令和4年度から令和8年度の5年間となっていることから、令和9年度に第4期スポーツ推進計画を参酌した中間見直しを実施する予定です。

【計画スケジュール案】

計画	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
スポーツ基本計画(国)	第3期(R4~R8)		第4期(R9~R13)			
下田市総合計画	第5次	第5次・後期(R8~R12)				
下田市スポーツ推進計画	見直し					

第2章 基本的な考え方

基本理念

「スポーツで、下田のまち・ひとを元気にする、つなげる」

基本理念における「元気」とは、元来のスポーツの効用でもある、心身の健康増進だけでなく、市民がいきいきと暮らす活力あふれるまちの姿も意味します。

本計画の取組により、市民の誰もがスポーツを楽しみ、健康的な生活を送ることができるまちづくりを進めるとともに、スポーツ・ツーリズムの推進や、スポーツイベント等を通じた交流により、「まち」と「まち」、「ひと」と「ひと」とを繋げ、スポーツを起爆剤としたまちの盛り上がりを創出します。

コロナ禍での様々な制限の余波もあり、未だスポーツ施設利用者数やイベント参加者数はコロナ禍以前の水準には戻っていないものの、策定にあたって実施した市民アンケートにおける「スポーツは大切だと思いますか？」という問いに対し、実に93.8%の回答者が「とてもそう思う・そう思う」と回答しました。

この結果は、スポーツが「不要不急」とされたコロナ禍を経てなお、日々の暮らしを豊かにし生活に潤いをもたらす、スポーツが持つ価値を市民が大切にしていることの証であると言えます。

下田市はスポーツを通じて、「元気」なまちの実現を目指します。

基本目標

基本理念を達成するべく、大きく三つの目標を設定し、それぞれに応じた施策を計画・実行します。

基本目標1 「スポーツ推進のための基盤づくり」

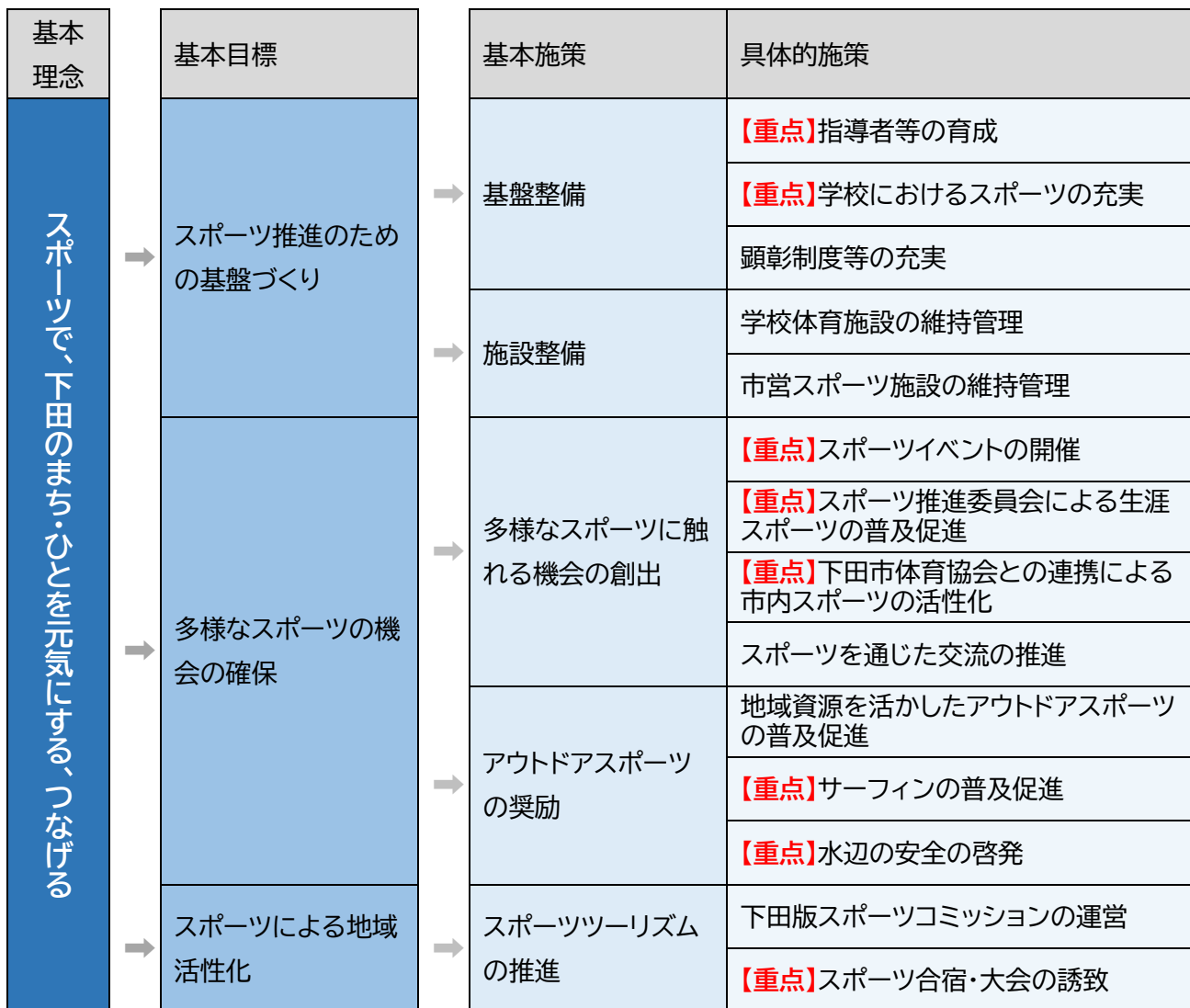
基本目標2 「多様なスポーツの機会の確保」

基本目標3 「スポーツによる地域活性化」

計画の体系図及び重点施策について

本計画の体系図は以下の通りとなります。

また、各基本施策において重点施策を設定し、数値目標による進捗管理を図ることで、計画の実効性を高めます。



持続可能な開発目標(SDGs)との関係

持続可能な開発目標(SDGs)は、平成27年9月の国連サミットで採用された国際目標で、持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲットで構成されています。本計画と関連性の高い目標として以下の五点を掲げ、本計画を通じてSDGsを実現できるよう、各施策を推進します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



アイコン	ゴール(目標)
<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p> <p>あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する</p>
<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに</p> <p>すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する</p>
<p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p> <p>海洋と海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する</p>
<p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>15 陸の豊かさも守ろう</p> <p>森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る</p>
<p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p>	<p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p> <p>持続可能な開発に向けてグローバル・パートナーシップを活性化する</p>

第3章 施策の内容

基本目標1「スポーツ推進のための基盤づくり」に対する施策

スポーツを楽しむ、スポーツを頑張る市民を応援し、市民がスポーツに打ち込める環境を整備するための基盤づくりを進めます。

基盤整備の取り組みでは、各競技の指導者養成を図るとともに、プロスポーツチーム等との連携により市内の児童・生徒に向けた教室等を開催し、質の高い指導に触れられる機会を増やすことを目指します。また、スポーツ団体、サークル等(社会教育団体)に対する支援を通じて、市民がスポーツを楽しむ環境を整えます。

施設整備については、平成29年度策定の「下田市公共施設等総合管理計画」において、施設の老朽化や、人口減少に伴う収収減を理由に、計画終了となる令和38年度(2056年度)までに市内公共施設の総延床面積を30%削減するという目標が掲げられていることから、スポーツ施設の大規模改修や新規整備は困難な状況となっています。しかし、限られた財源の中でも、利用者へのサービスを損なわないよう計画的な維持管理に努めます。

また、市民のニーズを見極めながら、スポーツ振興くじ助成金を始めとする各種助成金や補助制度を積極的に活用するとともに、これからのまちの規模に見合った施設のあり方を検討します。

1) 基盤整備

	具体的な取組内容	概要
①	指導者等の養成 重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者バンクの整備 ・部活動の地域連携の受け皿となる団体、指導者の育成 ・指導者向け講習会の開催(熱中症予防、救命講習等) ・指導者資格取得の奨励
②	学校におけるスポーツの充実 重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育団体に対する学校体育施設の開放 ・プロスポーツチームや体育協会との連携による、市内の児童・生徒を対象としたトップアスリート招聘事業の実施
③	顕彰制度等の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・体育協会表彰制度の活用 ・市広報や SNS を活用した成績優秀者の PR ・下田市全国大会等出場費補助金(青少年に限る)

2) 施設整備

	具体的な取組内容	概要
①	学校体育施設の維持管理 施設内容:市内1中学校、7小学校体育館およびグラウンド	<p>【近年の整備状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下田中学校新体育館建設(R4) <p>【今後の課題・検討事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予約、支払方法オンライン化の検討

②	市営スポーツ施設の維持管理	
	<p>吉佐美運動公園 供用開始:昭和 49 年 施設内容:野球場(軟式)※外野芝生にてグラウンドゴルフやサッカー利用も可能</p> 	<p>【近年の整備状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベンチ更新(R4) ・トイレ入口目隠し設置(R5) <p>【今後の課題・検討事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケートパーク、3X3 コート整備検討 ・硬式野球対応(防球ネット更新等) ・グラウンド水はけ改善
	<p>敷根公園 供用開始:昭和 61 年 施設内容:健康広場(グラウンド)、温水プール(50m×8コース)、テニスコート(6面)、弓道場、トレーニング室</p> 	<p>【近年の整備状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康広場内屋根付きベンチ設置(R5) ・テニスコート人工芝張替及び照明 LED 化(R6～) <p>【今後の課題・検討事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温水プールろ過機等修繕 ・温水プールコースロープ等更新 ・公園内トイレ洋式化 ・健康広場の機能向上
	<p>市民スポーツセンター 供用開始:平成6年 施設内容:体育館、会議室、視聴覚室等</p> 	<p>【近年の整備状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内の照明 LED 化(R5) ・外壁タイル改修(R5) <p>【今後の課題・検討事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館床張替

【重点施策の数値目標】

項目	基準値(直近の実績など)	令和12年度目標値
市内スポーツ施設の利用者数	131,129人	160,000人
社会教育団体における指導者(有資格者)数	52人	70人
トップアスリート等による教室開催数及び参加者数	3回/130人	4回/300人



基本目標2「多様なスポーツの機会の確保」に対する施策

スポーツイベントの開催やスポーツによる交流事業を通じ、市民が多様なスポーツに触れる機会を増やすことで、誰もが生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康的な生活を送ることができる環境づくりを進めます。

生涯スポーツの普及は、関連計画である「下田市健康増進計画」においても、健康寿命の延伸など6つの基本目標の実現にむけた施策の一つとして掲げられていることから、スポーツ推進委員会と体育協会との連携により取組みを推進します。その中でも現在、障がい者も健常者も楽しめるスポーツとして、スポーツ推進委員会を中心にパラリンピック正式種目であるボッチャ(※1)の普及を進めており、社会福祉協議会との共催による教室や大会を開催していますが、今後もニーズを踏まえながら、性別、年齢、障がいの有無を問わず様々な人がスポーツを楽しめる機会を創出します。

また、市民アンケートの結果、まちづくりの重要な要素である「定住意向」、「地域愛着」、「幸福感」の三項目において、マリンスポーツ経験者はいずれも非経験者と比較して高い数値を示したことから、“サーフシティ”を標榜する下田市として、幅広い世代にサーフィンを始めとするマリンスポーツを奨励するとともに、市民が安全にマリンスポーツを楽しめるよう、水辺の安全の啓発活動に努めます。

1)多様なスポーツに触れる機会の創出

	具体的な取組内容	概要
①	スポーツイベントの開催 重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・下田・河津間駅伝競走大会 ・黒船アクアスロン
②	スポーツ推進委員会による生涯スポーツの普及促進 重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャなどパラスポーツや軽スポーツの普及 ・県スポーツ振興課と連携した講師派遣事業等の実施 ・スポーツ庁「新体力テスト」の開催協力
③	下田市体育協会との連携による市内スポーツの活性化 重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・下田市スポーツ祭の開催 ・体育協会補助金を通じた各競技団体の普及、選手育成等に向けた取組みへの支援 ・しずおか市町対抗駅伝への下田市選手団の派遣
④	スポーツを通じた交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・下田市振興公社やマリネット下田等の関係機関と連携した海外のスポーツ選手、団体との交流事業の実施 ・姉妹都市、友好都市とのスポーツを通じた交流の推進

2)アウトドアスポーツの奨励

	具体的な取組内容	概要
①	地域資源を活かしたアウトドアスポーツの普及促進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活かしたアウトドアスポーツの普及 ・アウトドアスポーツを通じた環境意識の向上
②	サーフィンの普及促進 重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・中学高校サーフィン大会の開催 ・サーフシティ構想に基づく各種施策の実施
③	水辺の安全の啓発 重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・日本ライフセービング協会公認資格「ウォーターセーフティ(※2)」の取得奨励 ・関係団体と連携した安全教室の開催

【重点施策の数値目標】

項目	基準値(直近の実績など)	令和12年度目標値
市民のスポーツ実施率(週に1回以上)	70%	80%
スポーツ推進委員会主催イベントの参加者数	4回/175人	5回/300人
下田市スポーツ祭の参加者数	1,163人	2,000人
マリンスポーツ実施率	12.9%	25%
安全教室などの開催数及び参加者数	1回/407人	8回/1,000人



※1 ボッチャとは

ヨーロッパで産まれたパラスポーツ。ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青それぞれ6球ずつのボールを投げたり転がしたりして、いかに近づけるかを競う。

※2 ウォーターセーフティーとは

公益財団法人日本ライフセービング協会が公認する、浮き身等のセルフレスキューや、事故防止に関する知識を身につけるための基礎的な資格。

基本目標3 「スポーツによる地域活性化」に対する施策

令和5年度に行政及びスポーツ関連団体などで設立した「下田市スポーツ合宿・大会誘致推進協議会」を下田版スポーツコミッションと位置づけ、スポーツによる地域活性化を官民一体となって推進していくための体制を強化します。

「第2期下田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「第2次下田市観光まちづくり推進計画」においても、スポーツ合宿・大会誘致は目標として掲げられており、特にサーフィンを始めとする地域資源を活かしたアウトドアスポーツの合宿・大会誘致は地域活性化に寄与するものと期待されています。令和6年度には、多々戸浜にてサーフィンプロリーグ「S.LEAGUE」を、白浜大浜にて「SUP & PaddleBoard 選手権」、「ライフセービング種目別選手権」を誘致・開催し、選手、関係者をはじめ多くの方が下田を訪れました。

「S.LEAGUE」では、大会と平行して出場選手たちのサポートによるパラサーフィン教室が開催され、更には下田中学校サーフィン部の生徒がボランティアとして大会運営に携わるなど、単なる経済効果に留まらない、スポーツを通じた新たな交流が生まれました。今後も大会や合宿で訪れたチーム、選手たちとの交流によって、様々な賑わいがもたらされることが期待されます。

1) スポーツツーリズムの推進

	具体的な取組内容	概要
①	下田版スポーツコミッションの運営	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ専門ホームページによる情報発信の一元化 ・スポーツによる関係人口、交流人口の創出 ・新たなスポーツツーリズムのコンテンツ造成
②	スポーツ合宿・大会の誘致 重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・補助制度の拡充 ・マリンスポーツ大会の誘致 ・市内スポーツ施設などを活用した合宿の誘致

【重点施策の数値目標】

項目	基準値(直近の実績など)	令和12年度目標値
誘致したスポーツ大会数及び参加者数	3大会/1,036人	4大会/2,000人
スポーツ合宿利用者数	3,630人	5,000人



第4章 推進体制と進捗管理について

(1) 推進体制の整備について

「計画策定の趣旨」でも述べたように、近年、スポーツに関する行政課題は多様化しているため、庁内の関係各課のみならず、市内のスポーツ関係団体や学識経験者とも連携を強化し、基本理念の実現に向けた取組を推進します。

(2) 計画の進捗管理について

毎年度、重点施策を中心に取組の進捗報告及び評価・検証を行い、PDCA サイクルによる適切な進捗管理に努めます。常に内容の改善・見直しを図ることで、社会情勢の変化にも柔軟に対応できる計画を目指します。



資 料 編

(資料編)市民アンケート結果について

1)市民アンケートについて

本計画策定にあたり、市民のスポーツ実施状況やスポーツに対する意識、意見・要望等を把握することを目的に、アンケート調査を実施しました。

スポーツ実施状況等の部分については、スポーツ庁が実施するアンケート調査の項目を基にし、今後、国の平均値等との比較が可能な形としました。

また、「サーフシティ構想」における基礎資料にもするため、下田市独自の調査項目として、サーフィンを始めとするマリンスポーツ実施率やマリンスポーツに対する意識調査もあわせて実施しました。

2)調査概要

- ①調査地域 下田市内
- ②調査対象 市内在住の中学生以上の男女
- ③調査方法 市民メールでのウェブアンケート配信、市内公共スポーツ施設等の窓口での書面による調査、下田中学校生徒及び保護者、静岡県立下田高校の下田在住の生徒へのダイレクトメール
- ④調査期間 令和6年10月11日～10月31日
- ⑤回収数 844件

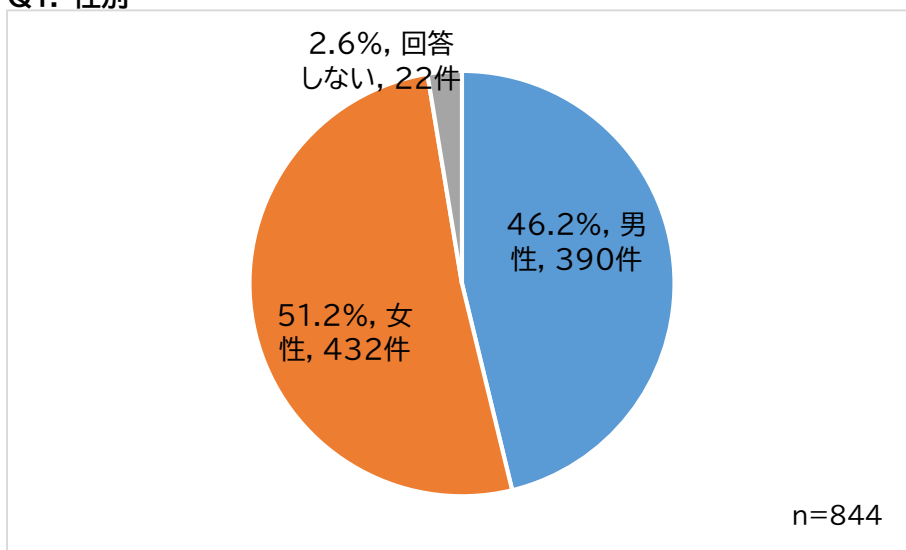
3)調査結果

調査結果を以下のとおりグラフで集計しました。

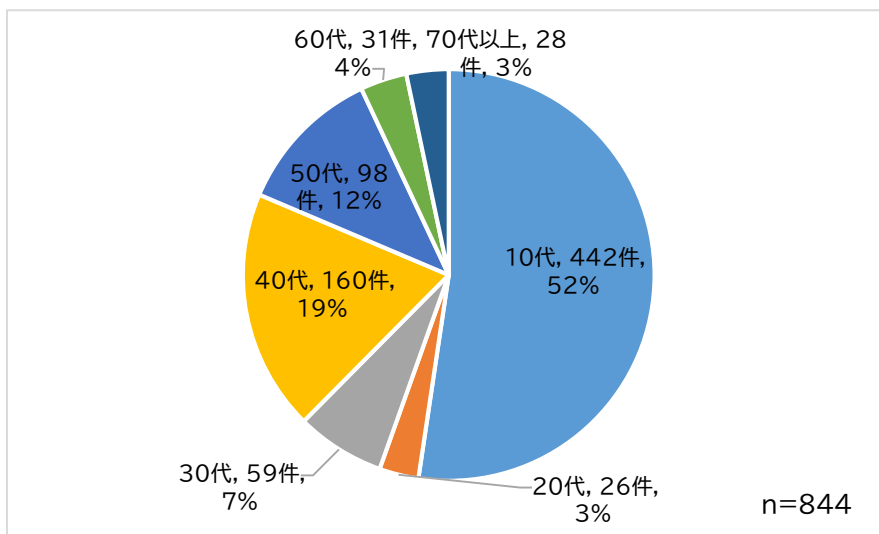
なお、小数点以下第2位を四捨五入している関係で、総合計が100%にならない場合があります。

また、複数回答の質問項目については合計の%が100%を超える場合があります。

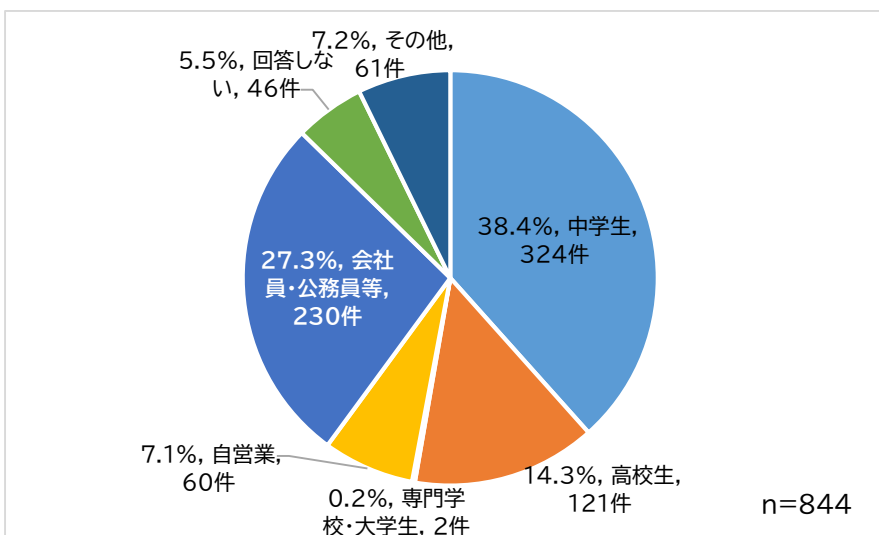
Q1. 性別



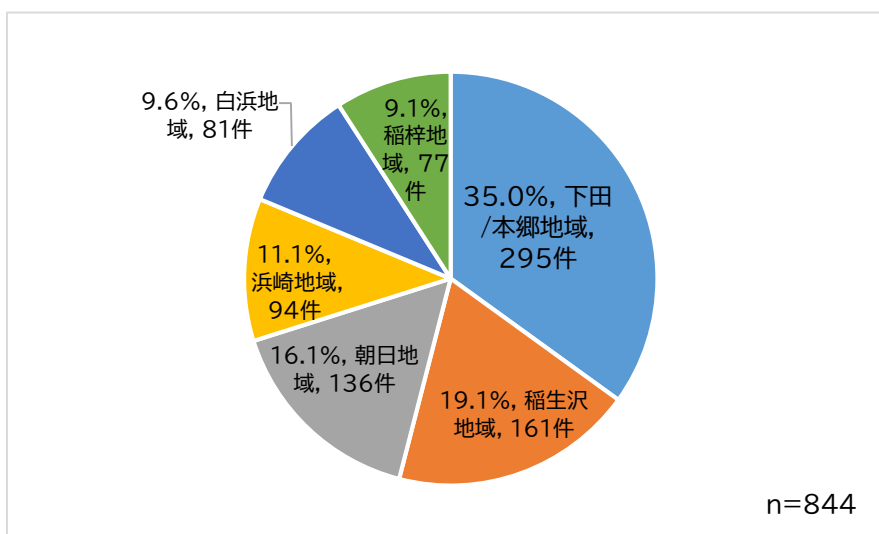
Q2. 年代



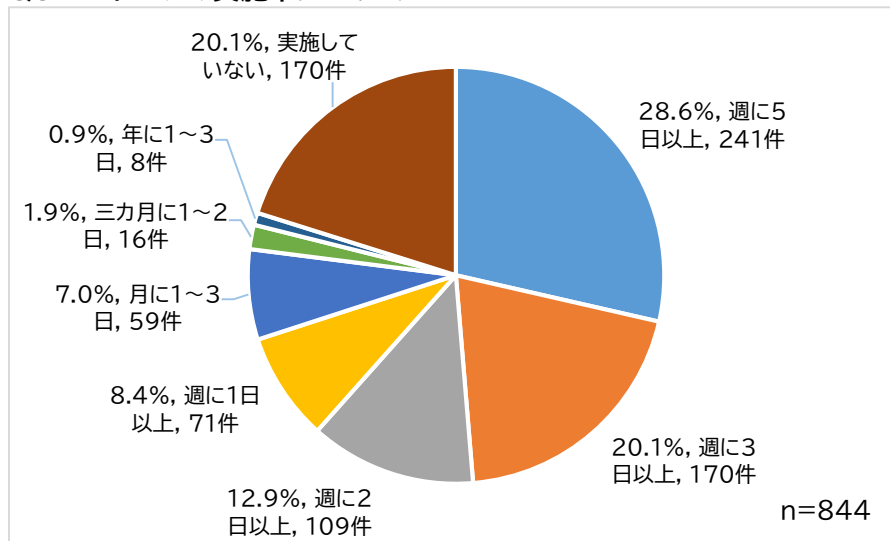
Q3. 職業



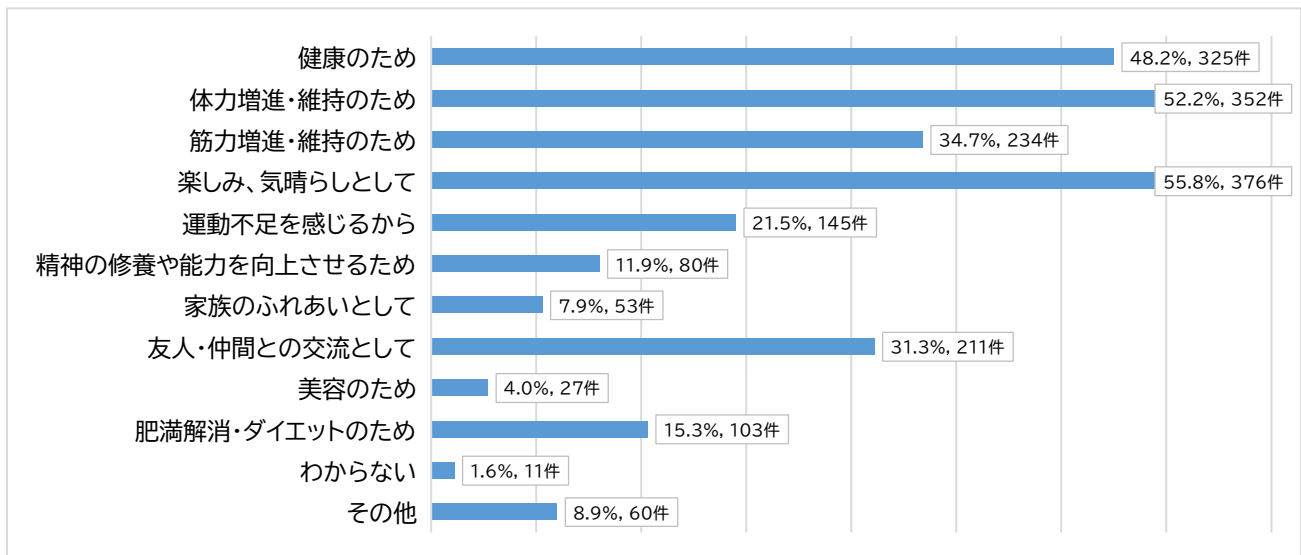
Q4. 居住する地域



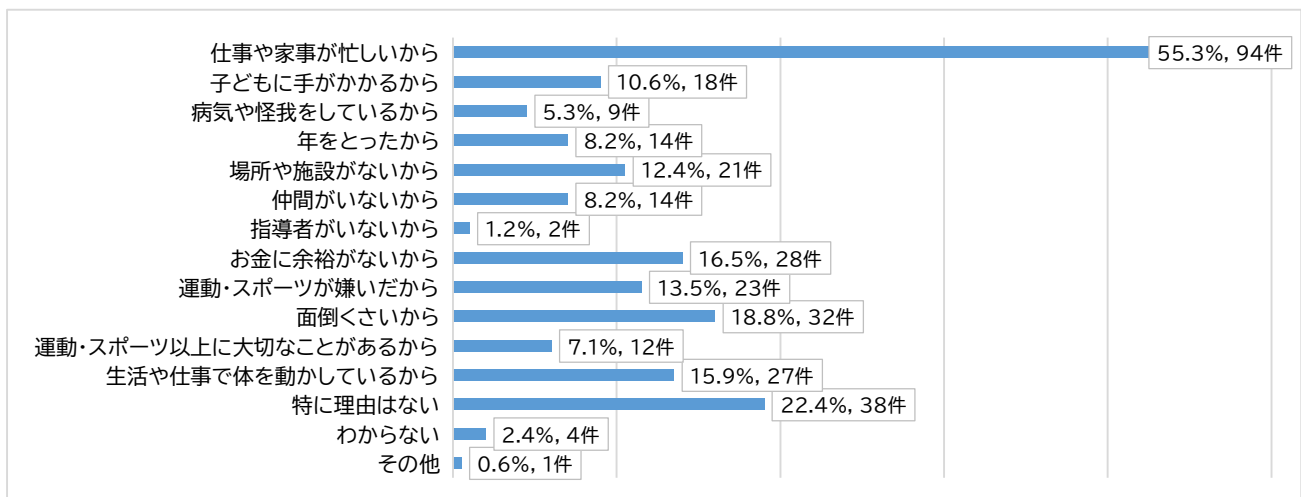
Q5. スポーツの実施率について



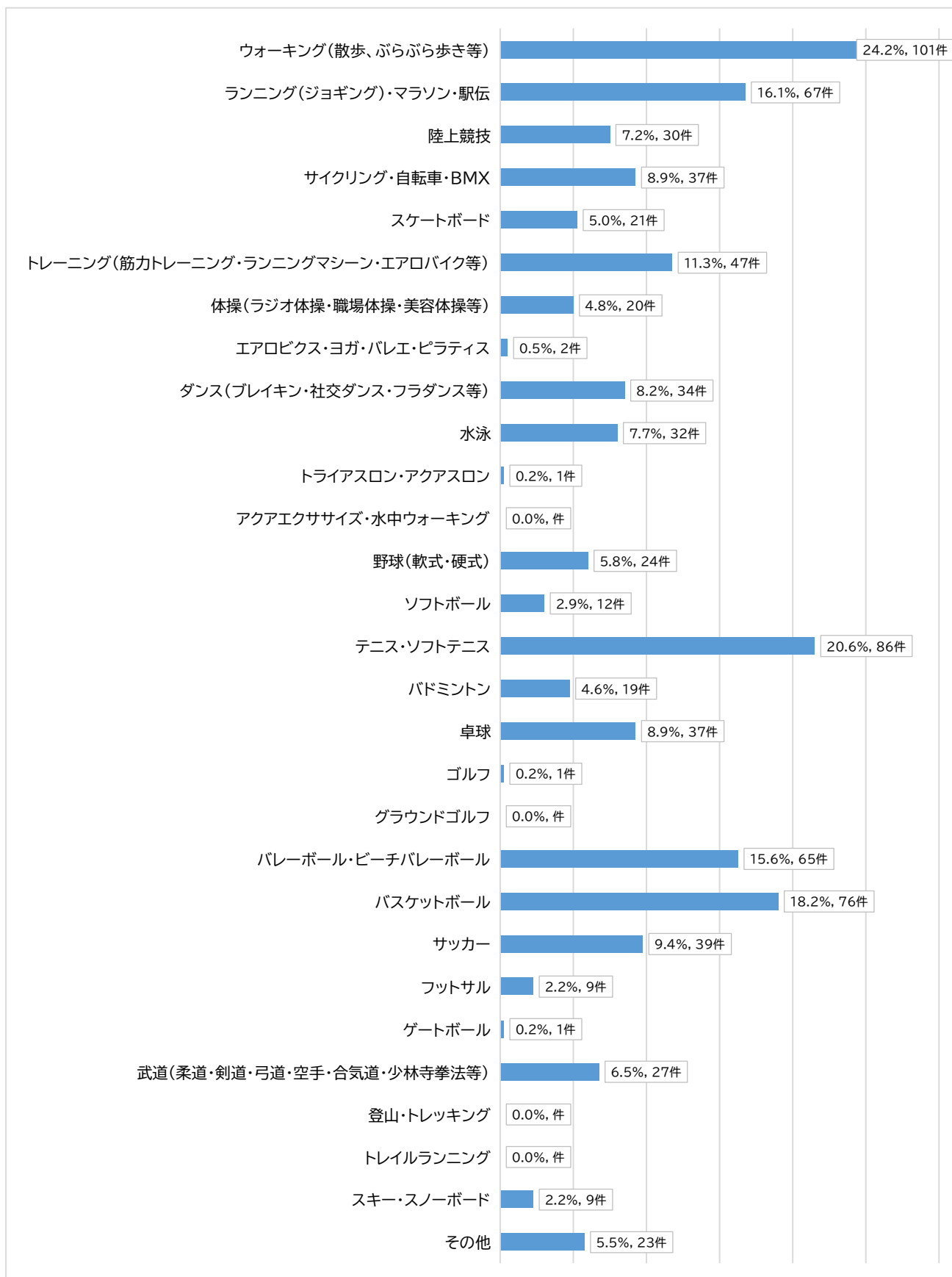
Q6. スポーツをしている理由(Q5で「実施していない」以外を選んだ方※複数回答可)



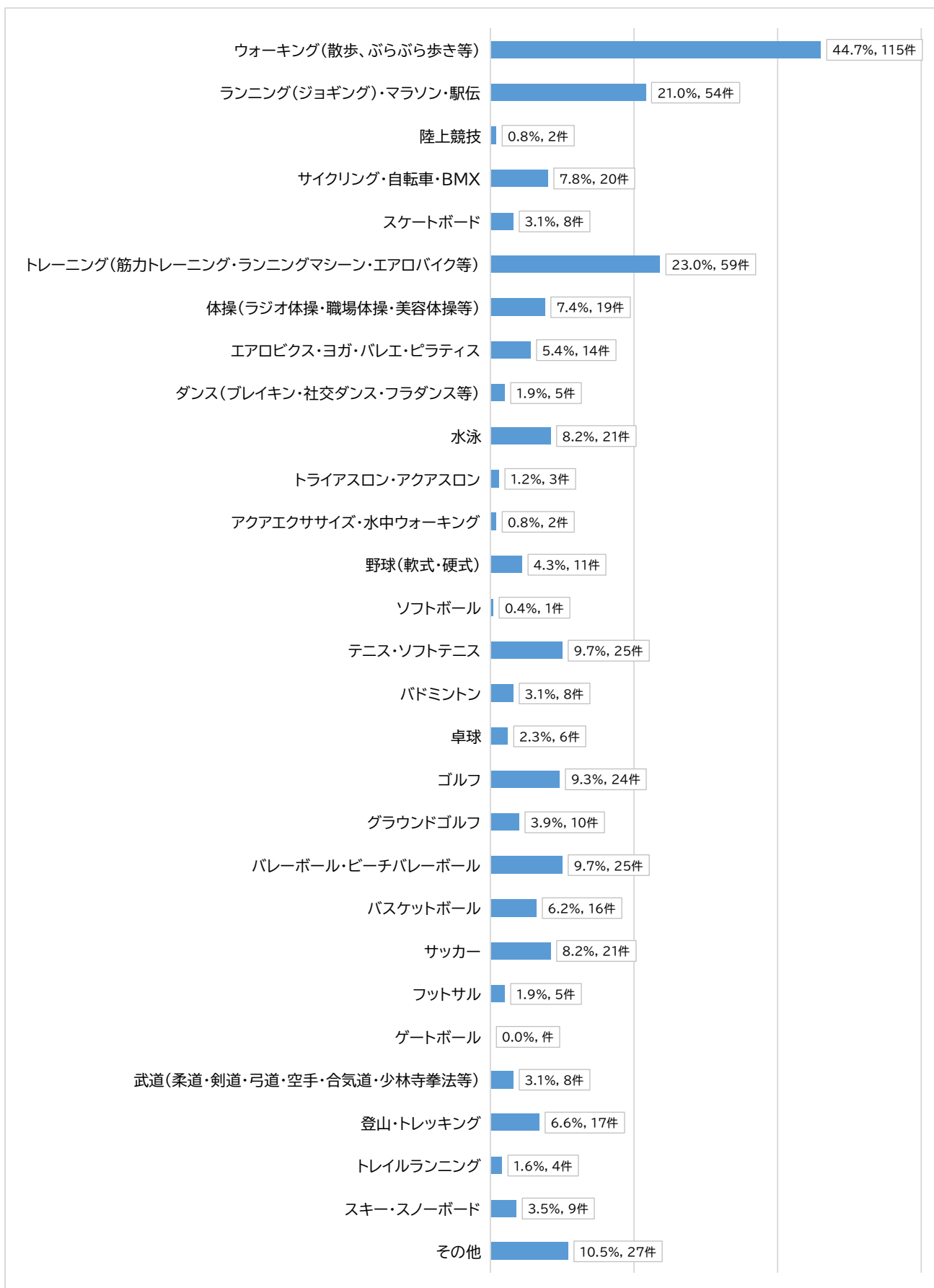
Q7. スポーツをしなかった・できなかった理由(Q5で「実施していない」を選んだ方※複数回答可)



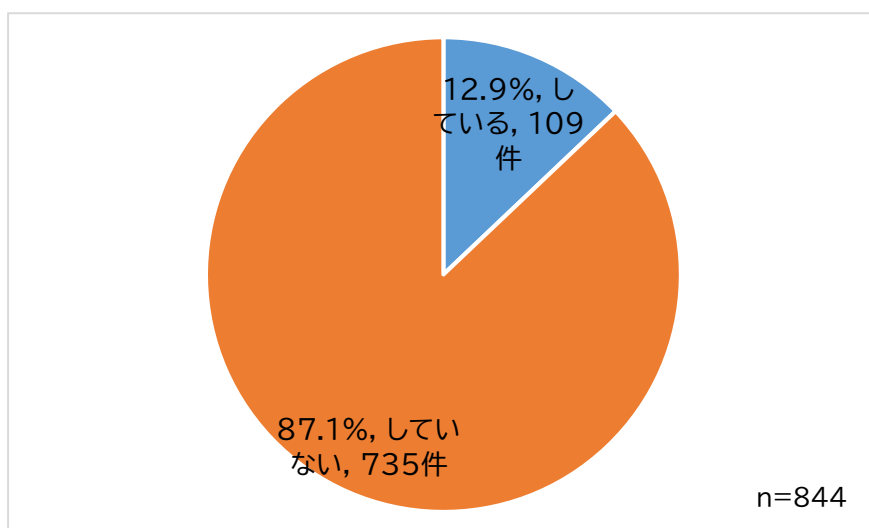
**Q8. 実施しているスポーツの種類(Q5 で「実施していない」以外を選んだ方※複数回答可)
【10代の結果】**



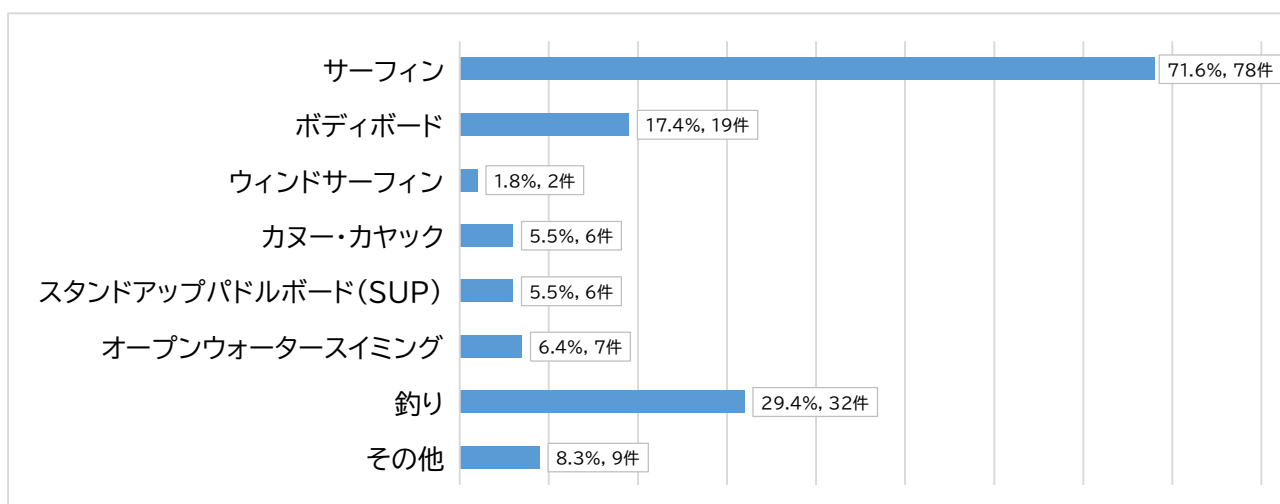
【20代以上の結果】



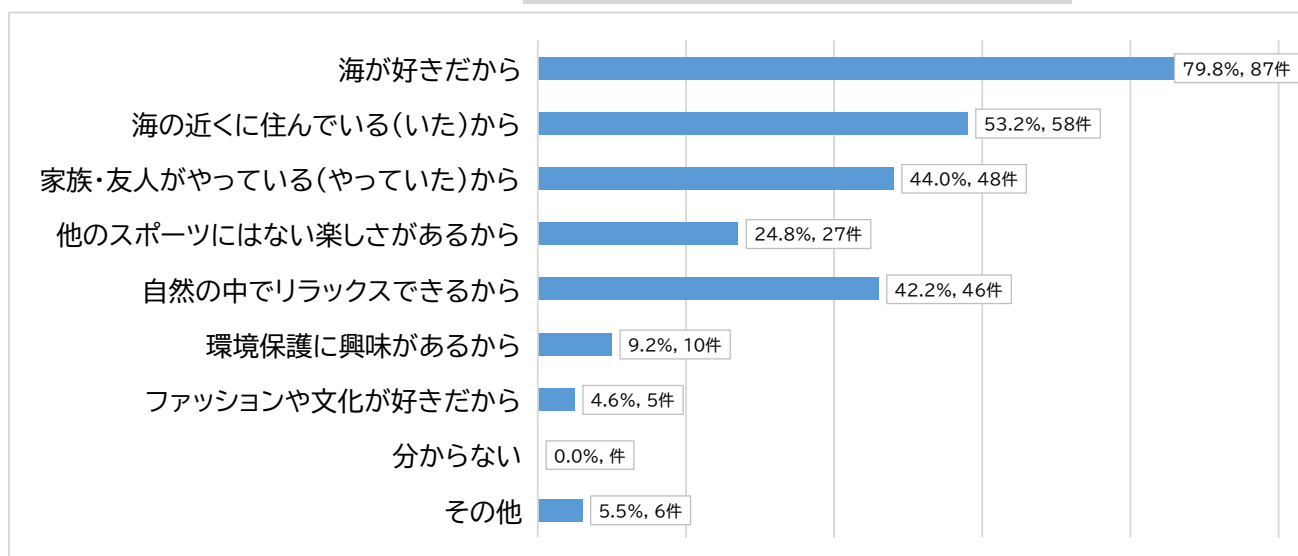
Q9. サーフィン等のマリンスポーツは実施していますか？



Q10. 実施しているマリンスポーツの種類(Q9で「している」を選んだ方※複数回答可)



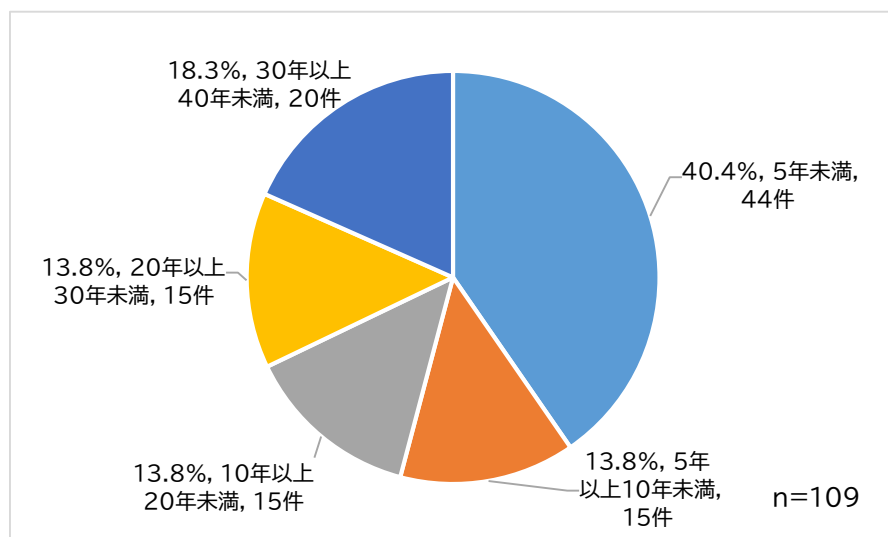
Q11. マリンスポーツを実施している理由(Q9で「している」を選んだ方※複数回答可)



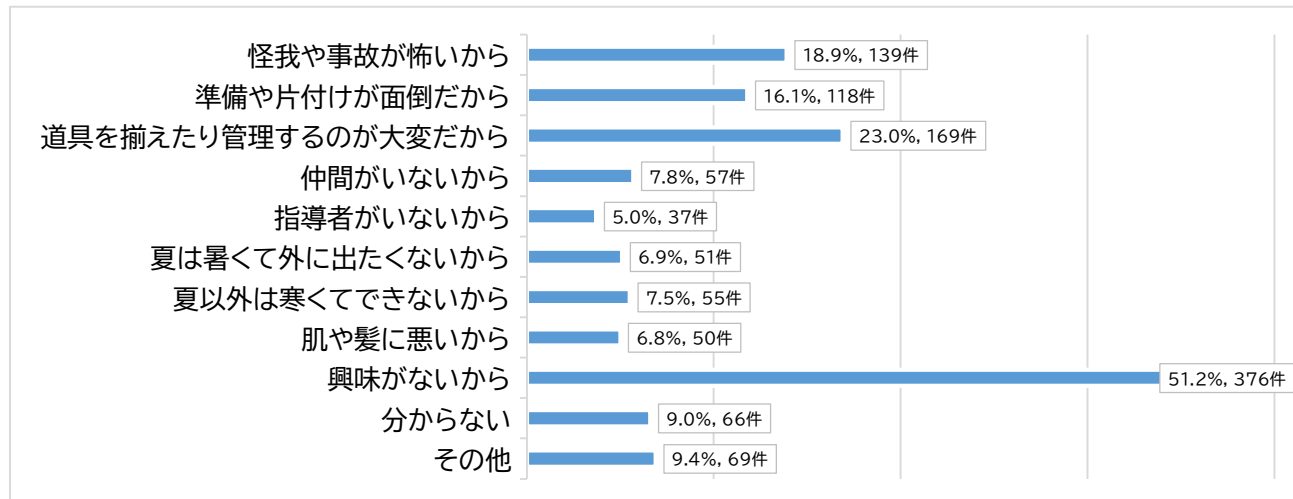
Q12. Q11 で「他のスポーツにはない楽しさがあるから」を選択した方は、その具体的な内容を教えてください(任意回答)

- ・下田の海は綺麗なで浸かってるだけでもマインドがリフレッシュされる
- ・日常を忘れる・時間を忘れる、心地良い疲労感、海の音に癒やされる
- ・自然に触れながら美しい海や景色に触れられる
- ・自然に人間が調和することで技術も精神も磨かれていくから、
- ・同じことの繰り返しではなく飽きない、同じ波は二度は来ないから
- ・自然との一体感、波と一体化できるのが気持ちいいから
- ・毎日コンディションが変わる波に乗ることの難しさ
- ・慣れた時の爽快感・達成感が他のスポーツと比べて格段に大きいから
- ・朝日や晴天などスポーツ本体の楽しさに加え自然の美しさを感じられる
- ・ライフワーク
- ・海水棲の甲殻類・軟体動物の写真を撮るのが好きだから、
- ・爽快感、浮遊感、自然の中で行う快感、スリルでアドレナリンが出る
- ・海に入るとスッキリし毒素が抜けるから
- ・自然の良さも怖さも実感できる

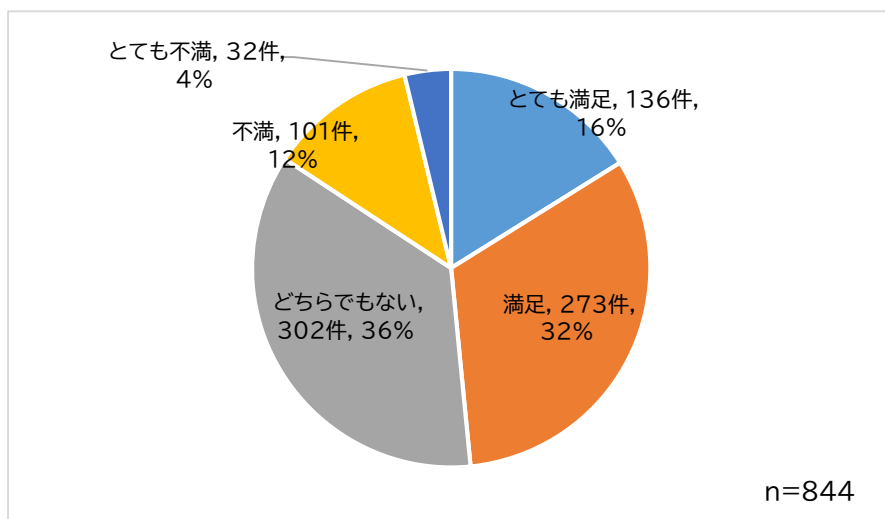
Q13. マリンスポーツ歴をご記入ください(Q9 で「している」を選んだ方※中断期間含む)



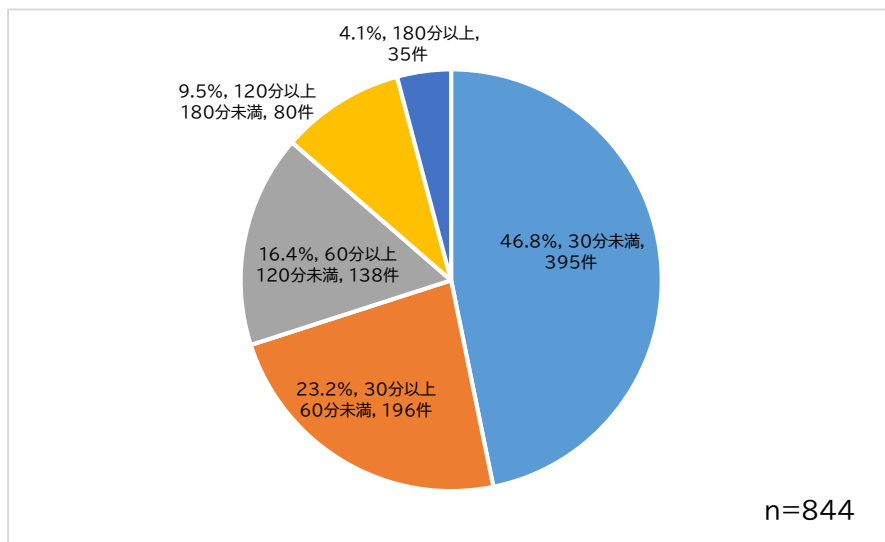
Q14. マリンスポーツをしない理由(Q9 で「していない」を選んだ方※複数回答可)



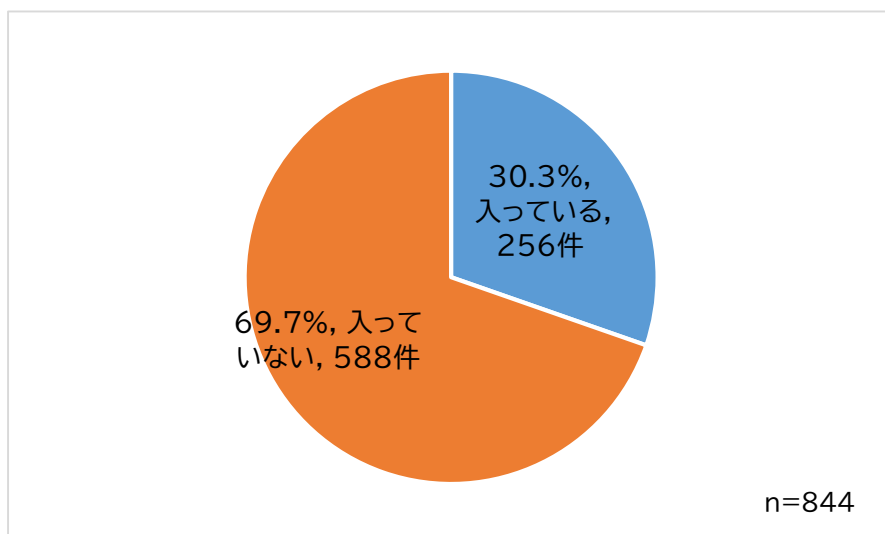
Q15. 現在のスポーツ実施率に満足していますか？



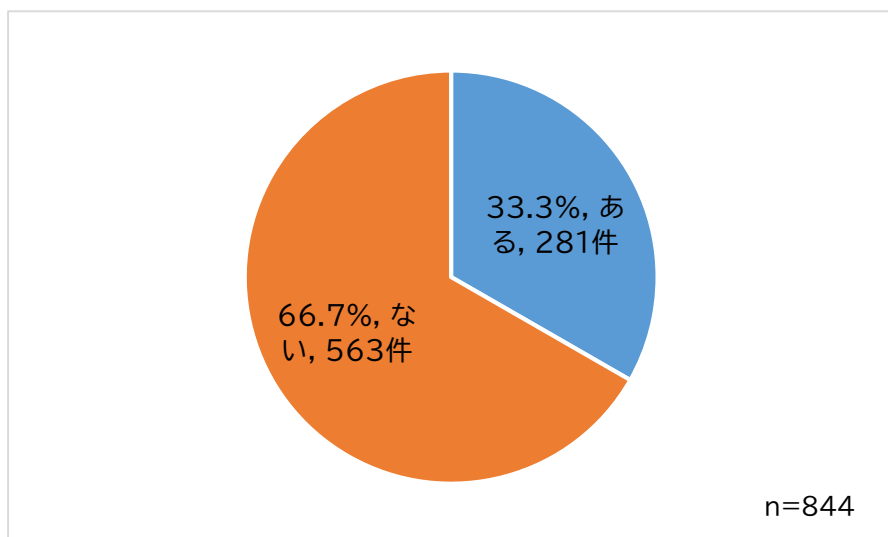
Q16. 一日に何分程度、中強度以上の運動をしていますか？(※中強度の運動…ウォーキング、サイクリング、スポーツ以外にも掃除機掛けや庭掃除など多少息があがるものを10分以上行うこと)



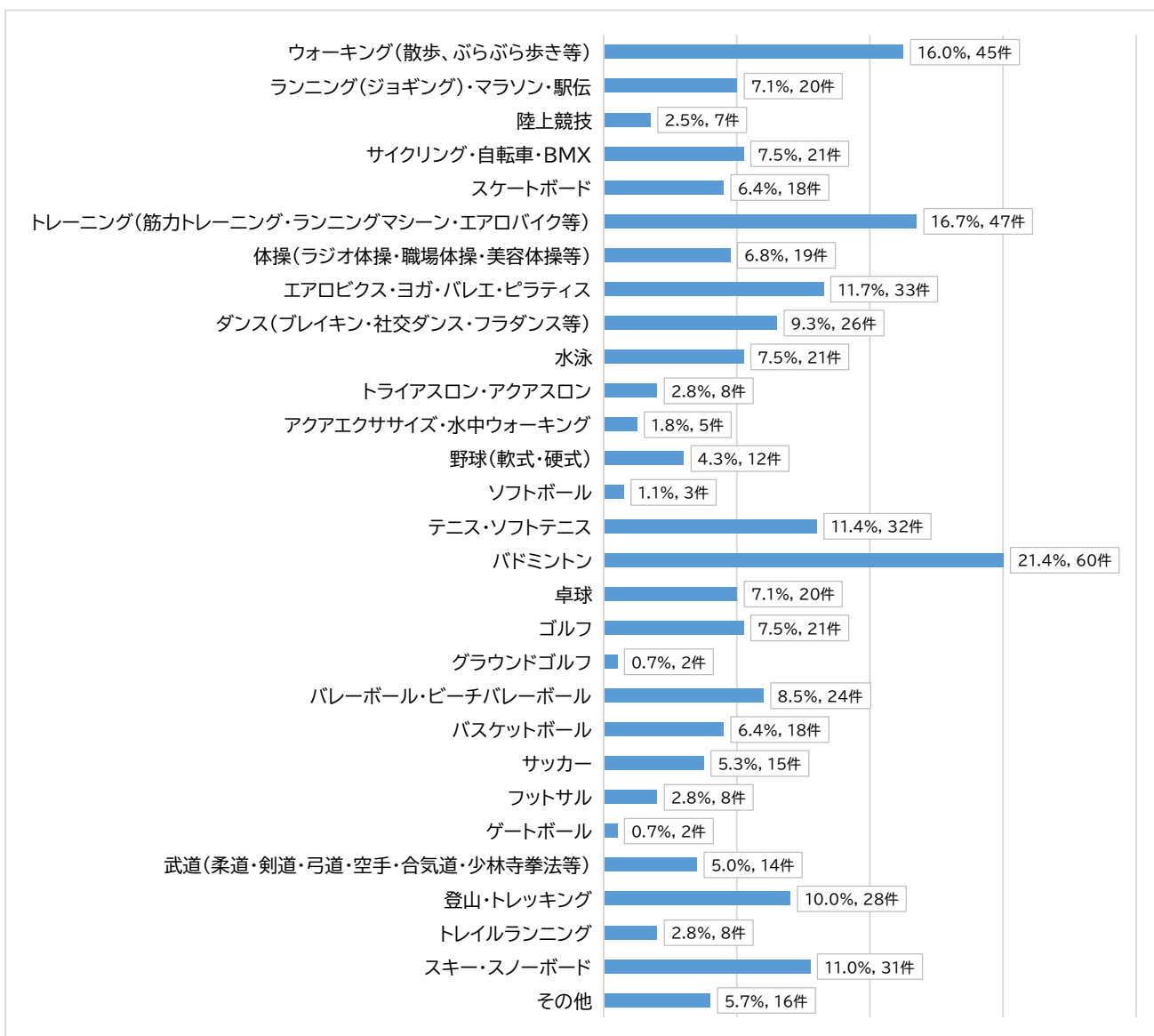
Q17. スポーツクラブやサークル、教室等への加入の有無



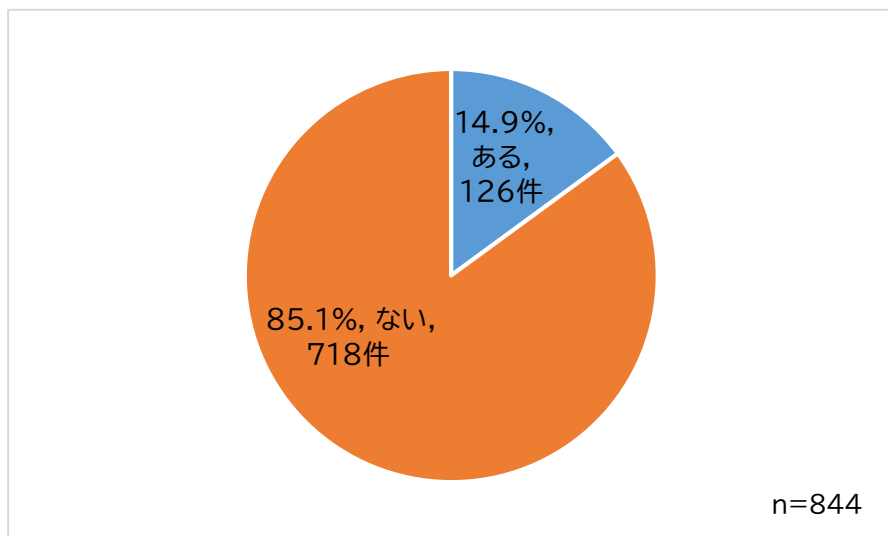
Q18. 今後始めてみたいスポーツはありますか？



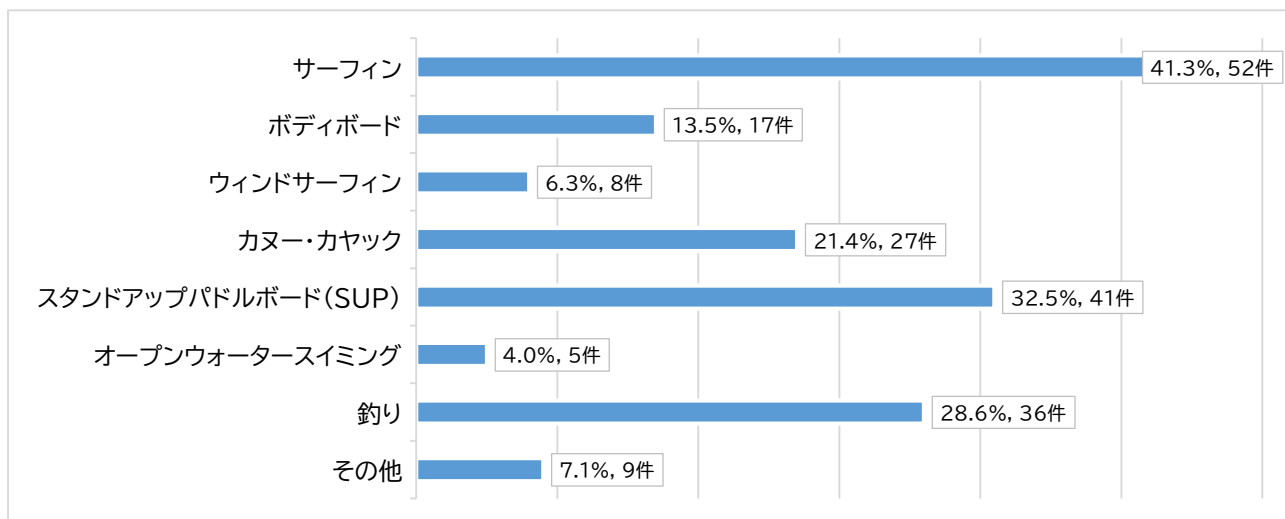
Q19. 今後始めてみたいスポーツの種類(Q18で「ある」を選んだ方※複数回答可)



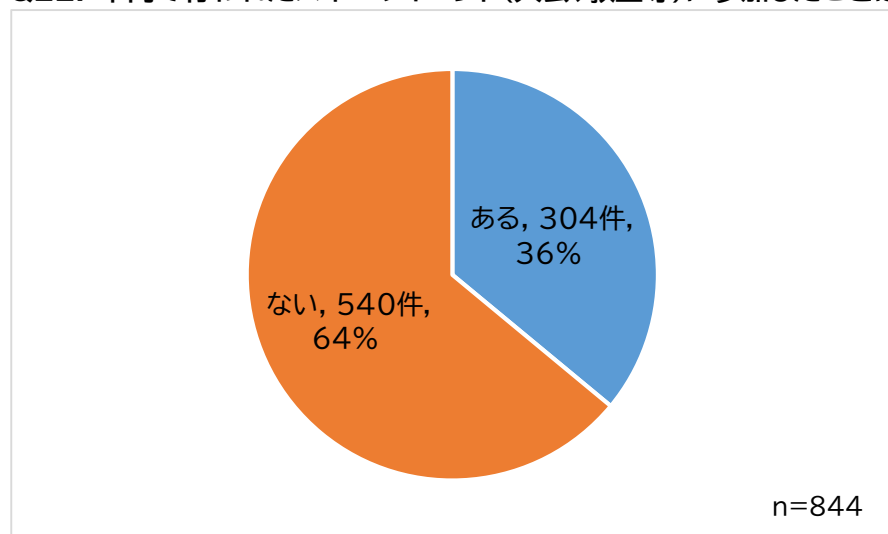
Q20. 今後始めてみたいマリンスポーツはありますか？



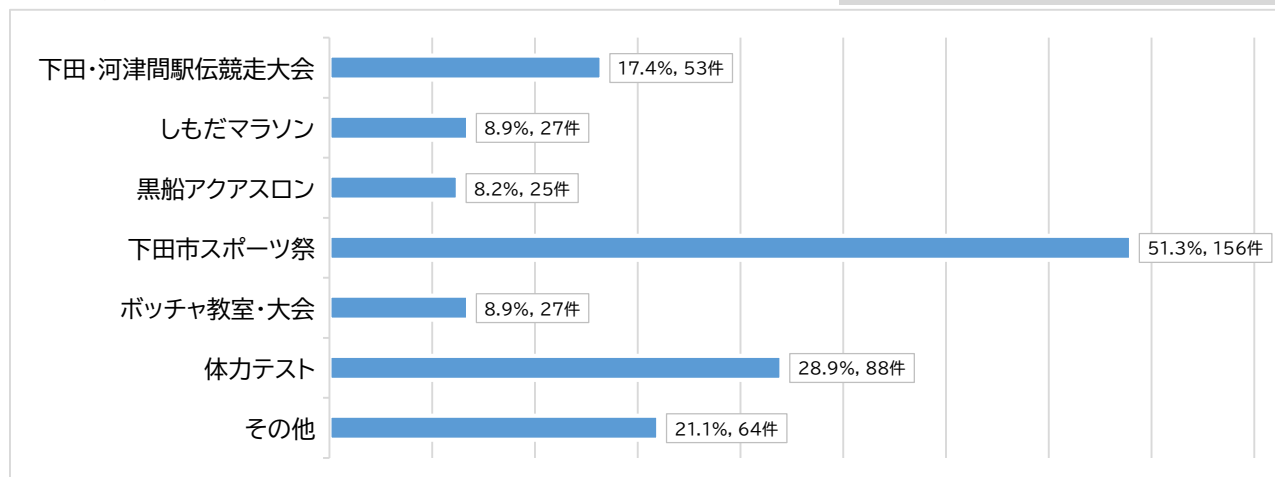
Q21. 今後始めてみたいマリンスポーツの種類(Q20で「ある」を選んだ方※複数回答可)



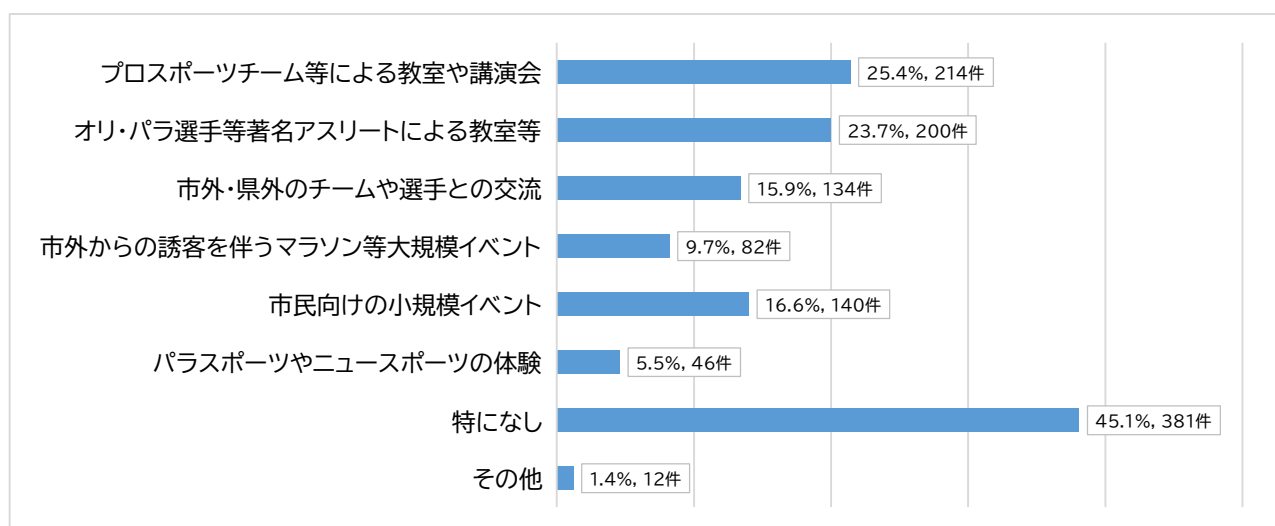
Q22. 市内で行われたスポーツイベント(大会、教室等)に参加したことはありますか？



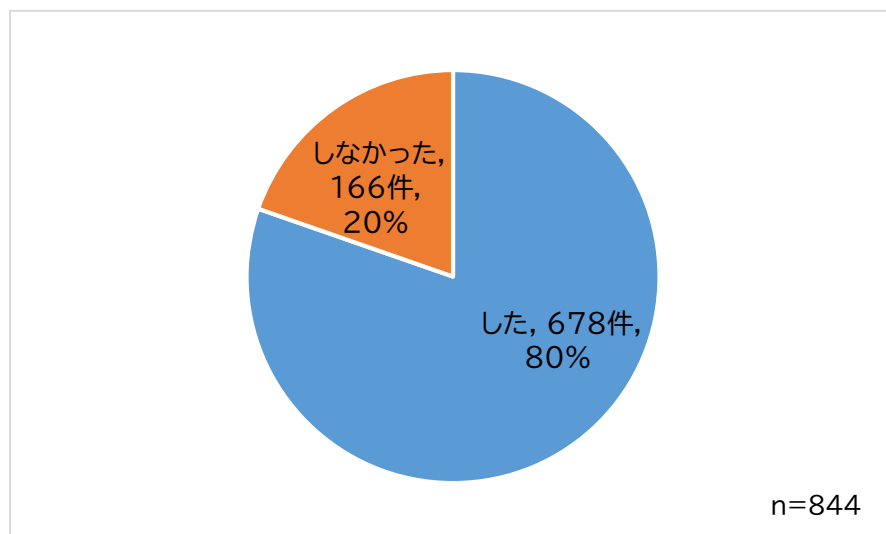
Q23. 参加したことがある市内スポーツイベントをお選びください (Q22 で「ある」を選んだ方※複数回答可)



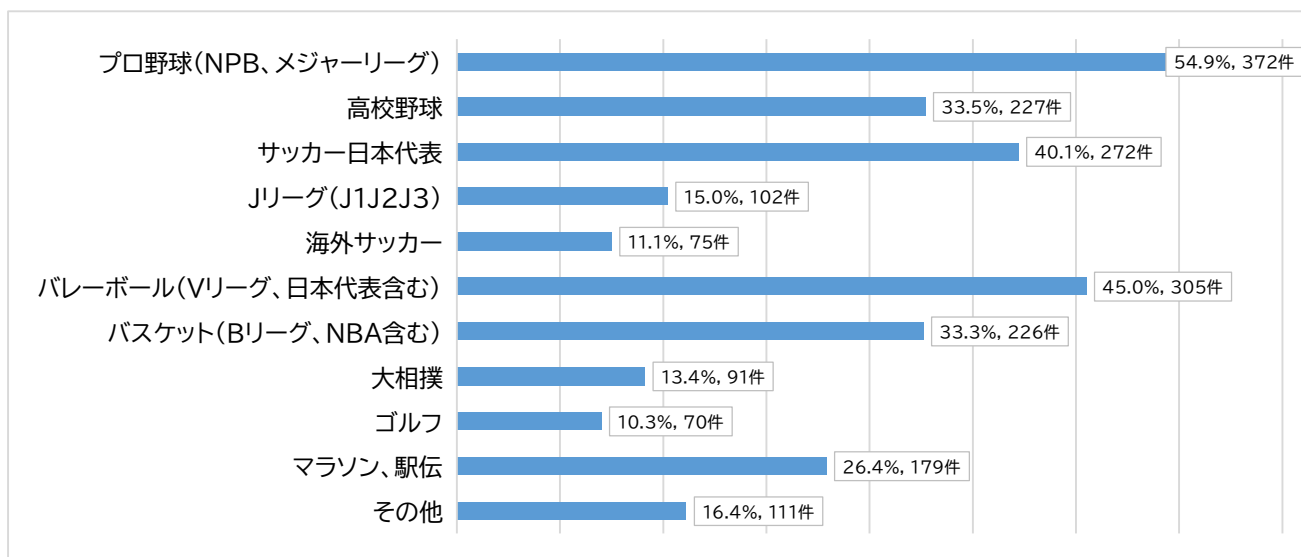
Q24. 今後どんなスポーツイベントの開催を期待しますか？(※複数回答可)



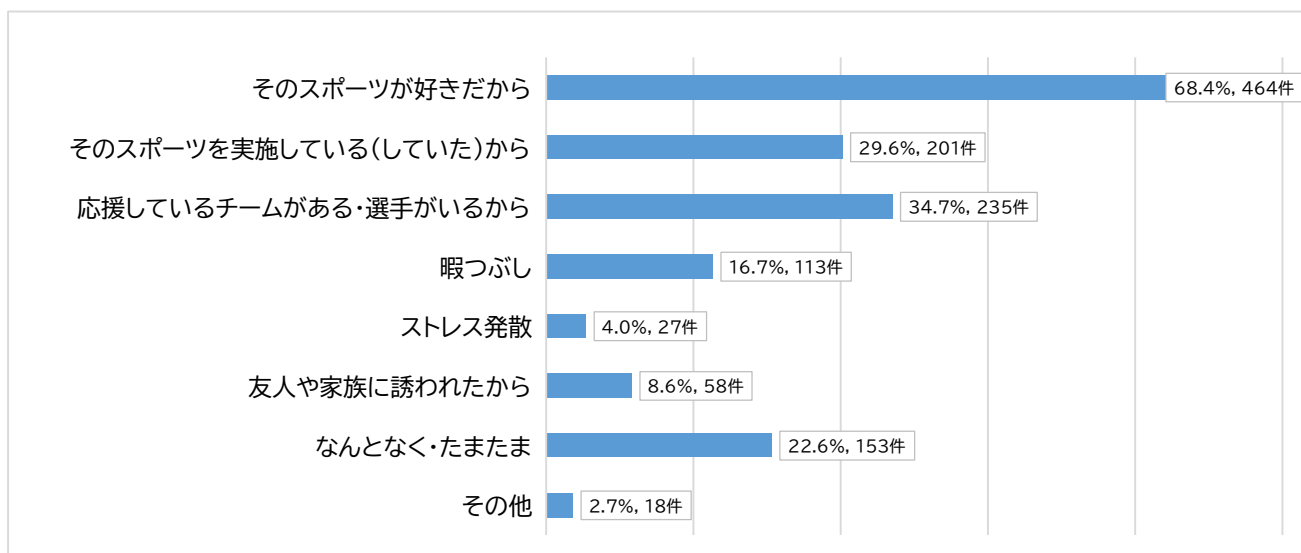
Q25. この1年でスポーツを観戦しましたか？(TV・オンライン配信等含む)



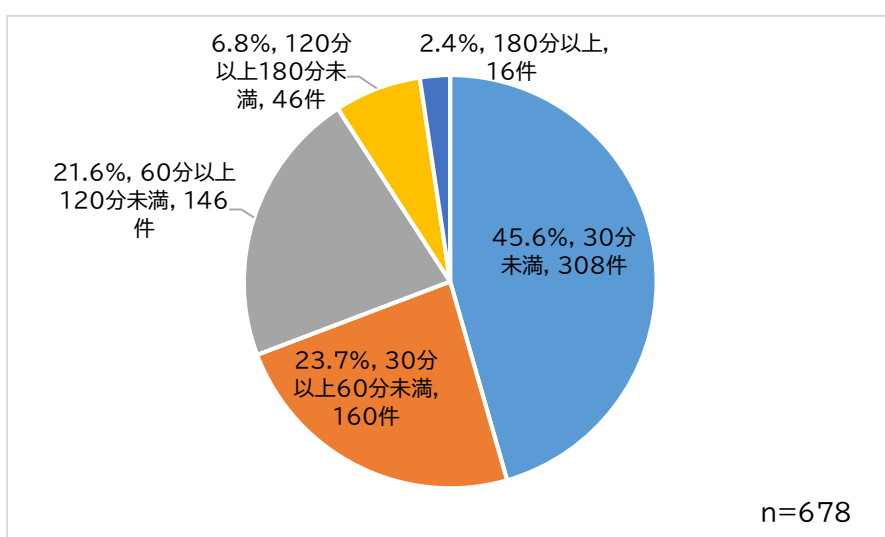
Q26. 観戦したスポーツの種類(Q25で「した」を選んだ方※複数回答可)



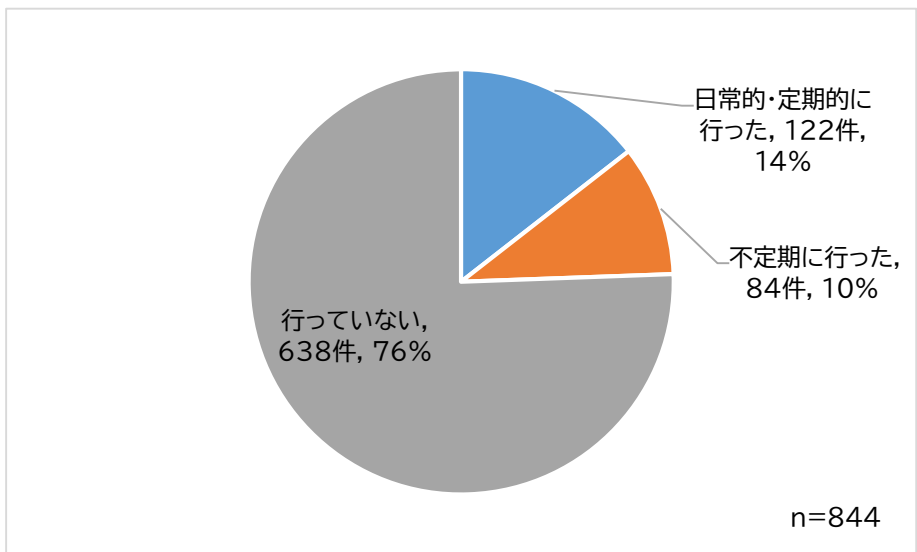
Q27. スポーツ観戦をしている理由(Q25で「した」を選んだ方※複数回答可)



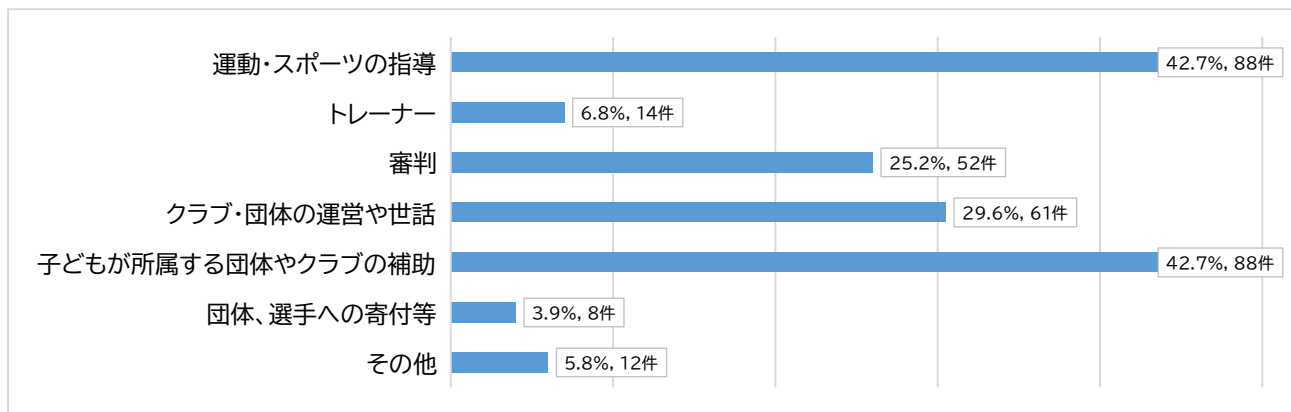
Q28. 一日に何分程度スポーツ観戦をしていますか？(Q25で「した」を選んだ方※TV・ネット観戦含む)



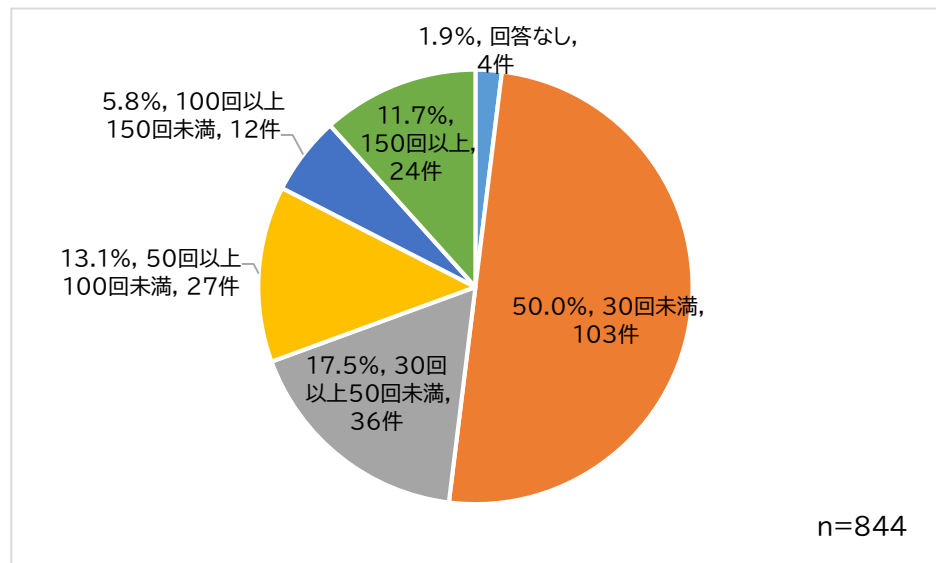
Q29. この1年で「運動・スポーツを支える活動」をどの程度行いましたか？(支える活動とは…指導、審判、子どもが通うクラブの練習補助、チーム・選手への支援等)



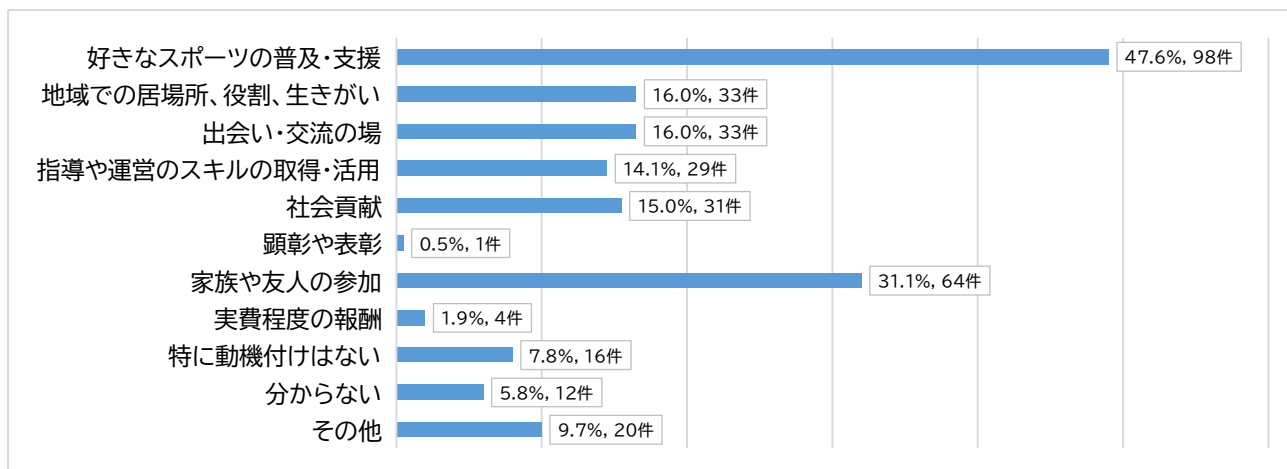
Q30. 「支える活動」の内容を教えてください(Q29で「定期的・定期的に行った」または「不定期に行った」を選んだ方※複数回答可)



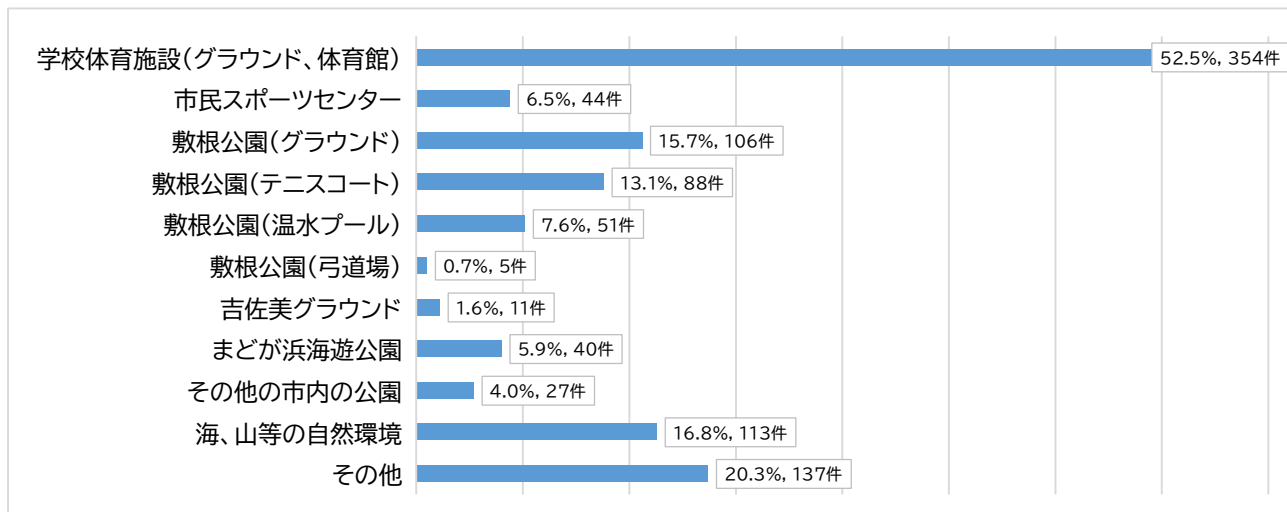
Q31. この1年で行った「支える活動」の回数を教えてください(Q29で「定期的・定期的に行った」または「不定期に行った」を選んだ方)



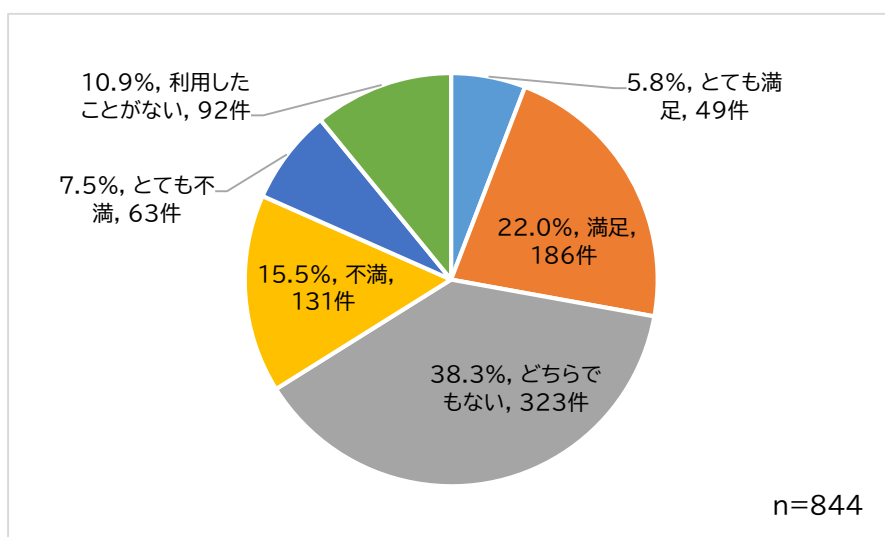
Q32. 「支える活動」の動機を教えてください(Q29で「日常的・定期的に行った」または「不定期に行った」を選んだ方※複数回答可)



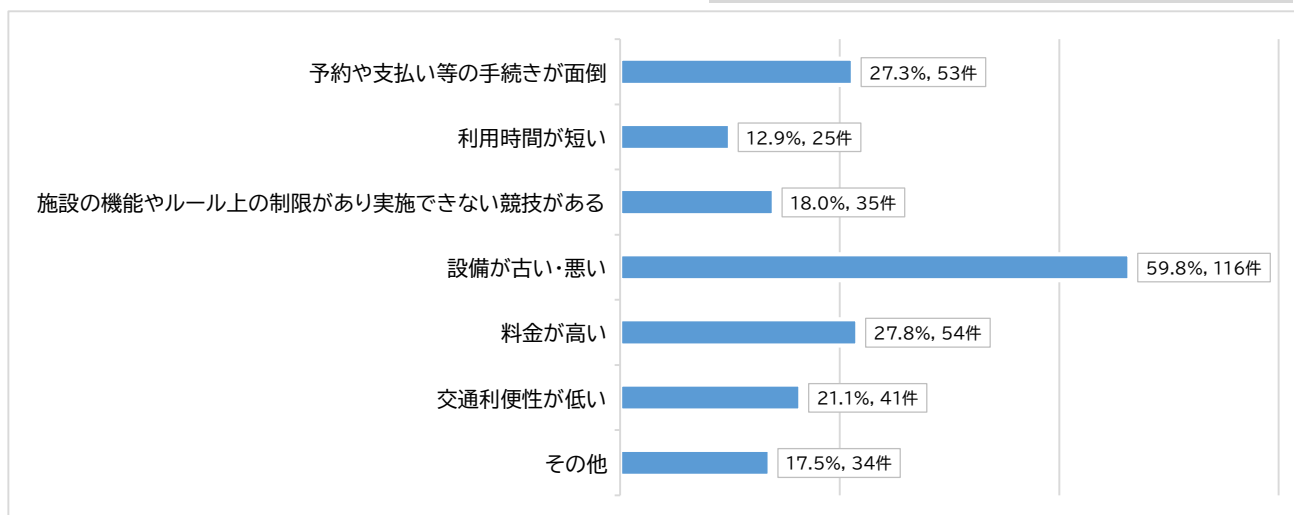
Q33. スポーツを実施している場所を教えてください(Q5で「実施していない」以外を選んだ方※複数回答可)



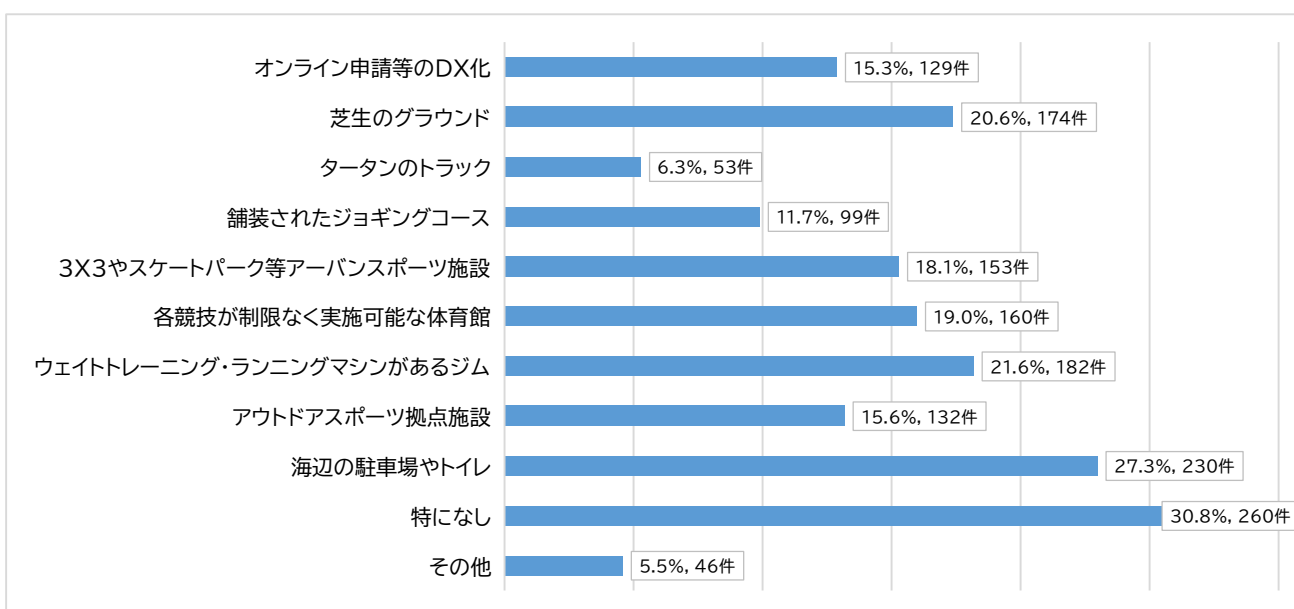
Q34. 下田市内の公共スポーツ施設(学校除く)の満足度



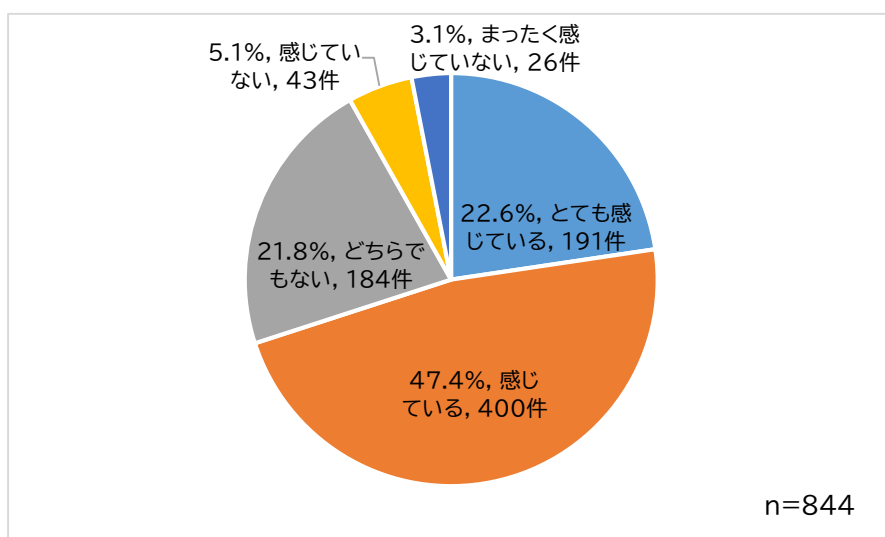
Q35. 下田市内の公共スポーツ施設に対する不満の理由(Q34で「不満」または「とても不満」を選んだ方※複数回答可)



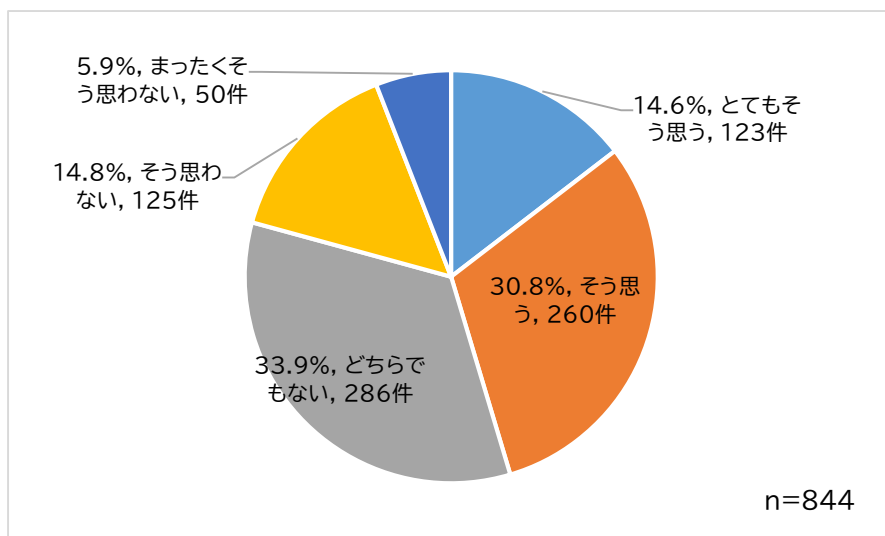
Q36. 今後の市のスポーツ環境整備に期待するもの(※複数回答可)



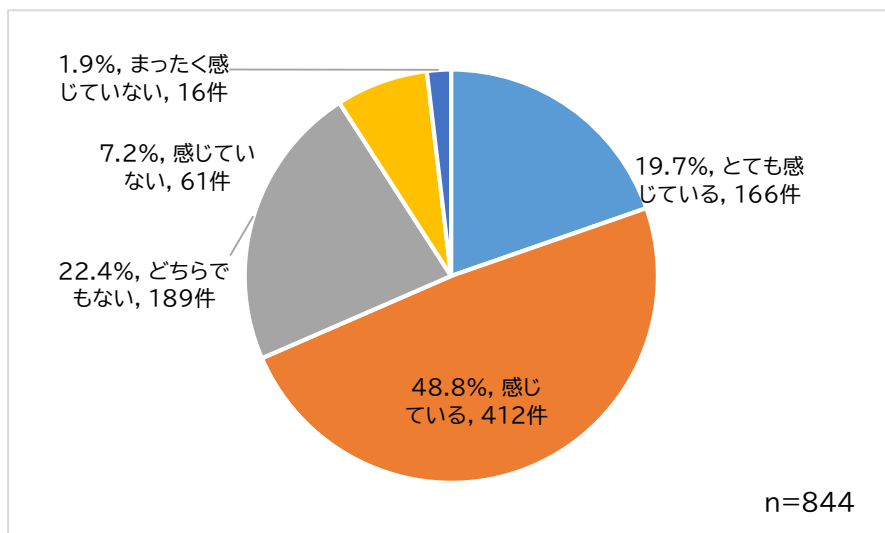
Q37. 下田市に愛着を感じていますか？



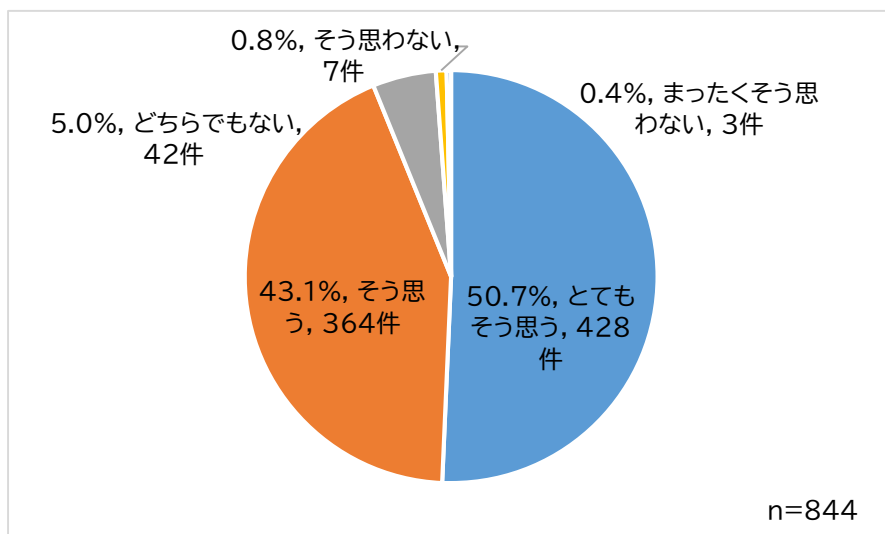
Q38. 下田市に住み続けたいと思いますか？



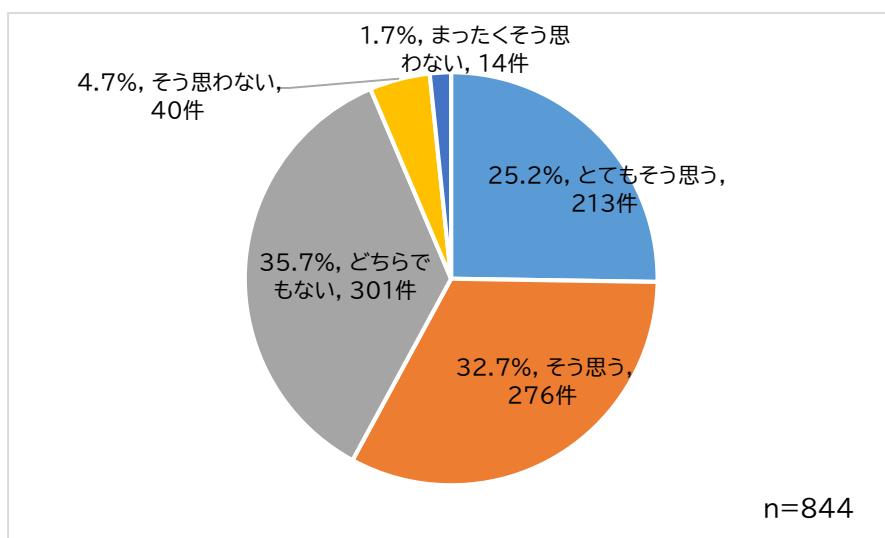
Q39. 自分の生活に幸福感や充実感を感じていますか？



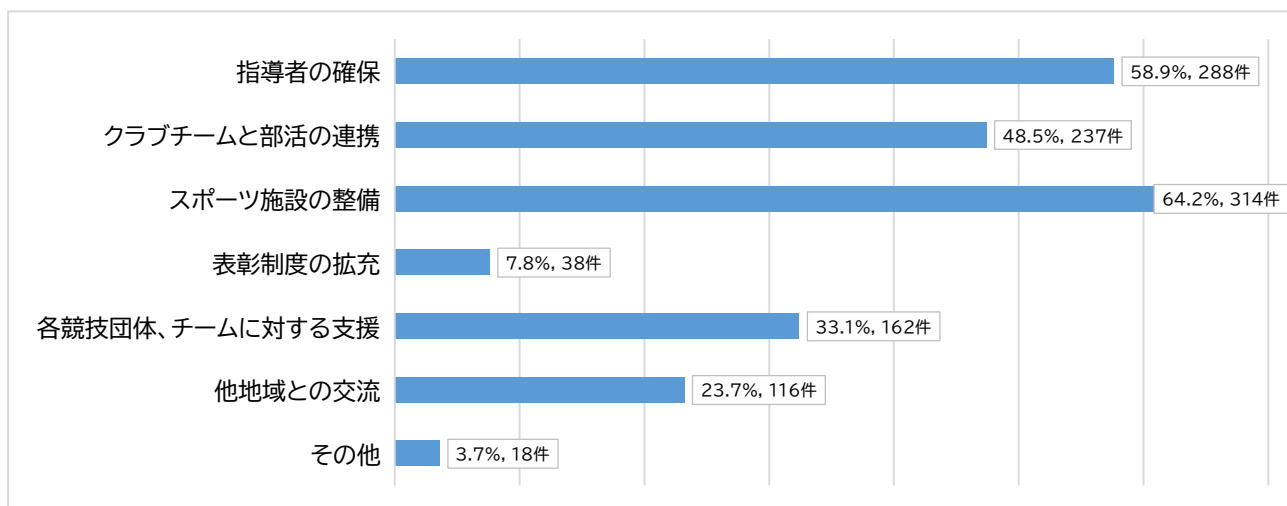
Q40. スポーツは大切だと思いますか？



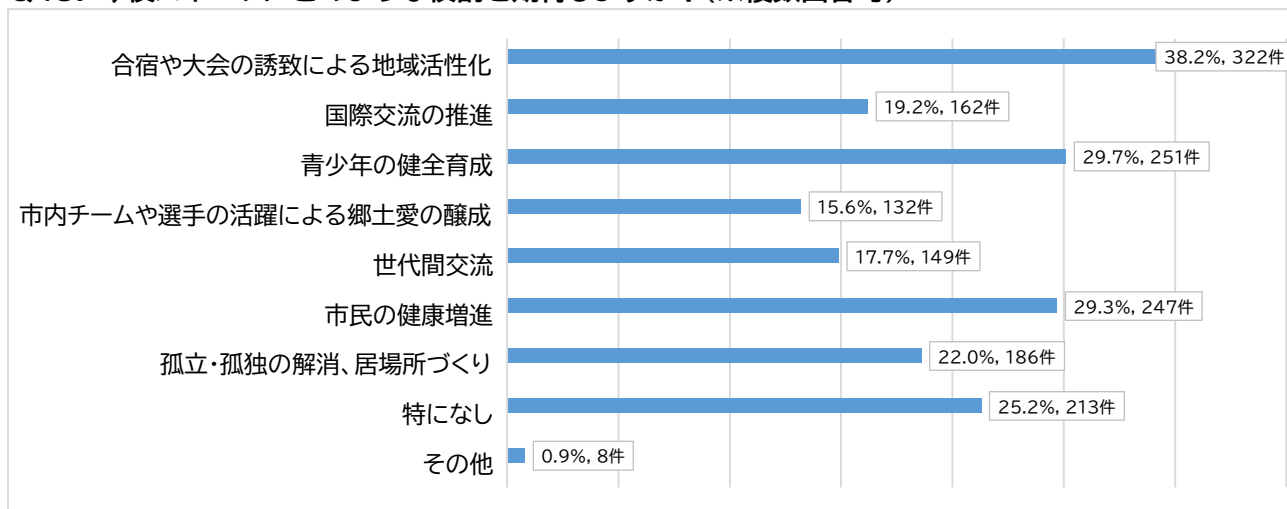
Q41. 市のスポーツレベル(競技力)を向上させる必要があると思いますか？



Q42. 市のスポーツレベル(競技力)を向上させる手法(Q41 で「とてもそう思う」または「そう思う」を選んだ方※複数回答可)



Q43. 今後スポーツにどのような役割を期待しますか？(※複数回答可)



(資料編)市民アンケート結果分析

(1)スポーツが市民に与える影響についての分析

本計画の施策検討にあたり、東海大学スポーツマネジメント戦略室の協力を得て、スポーツが市民の「幸福感」にどのような影響を持っているか、市民アンケートの結果に基づき相関分析を行いました。

相関分析は二つの変数の関係の強さを測るもので、係数が1に近いほど正の相関が強く、-1に近いほど負の相関が強いということになります。

スポーツへの関与の深さを測る尺度として Q16「する(中程度運動)」、Q25「見る(観戦)」、Q29「支える(指導等)」の三項目における回答を用い、アンケート調査Q39「幸福感」の五段階評価(とてもそう感じる、そう感じる、どちらでもない、そう感じない、まったくそう感じない)との相関を分析しました。

		相関			
		中程度運動 (1日何分)	スポーツ観戦 (1日何分)	支える回数 (1年間)	幸福感
中程度運動 (1日何分)	Pearson の相関係数	1	.104**	-0.042	.117**
スポーツ観戦 (1日何分)	Pearson の相関係数	.104**	1	0.103	-0.075
支える回数 (1年間)	Pearson の相関係数	-0.042	0.103	1	-.142*
幸福感	Pearson の相関係数	.117**	-0.075	-.142*	1

**、相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。
*、相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。

(※東海大学スポーツマネジメント戦略室による算出)

分析の結果、現段階においては、スポーツを「する」・「見る」・「支える」の頻度と、「幸福感」の間に明確な相関関係は見られないということが分かりました。

今後、本計画に基づき、スポーツを通じて市民の幸福度を高めるような取組みが求められます。

(2)マリンスポーツが市民に与える影響についての分析

「サーフシティ構想」に基づく、サーフィンを始めとするマリンスポーツを活かしたまちづくりを推進するにあたり、Q13 マリンスポーツ歴の長さ(年数)と、Q37「定住意向」・Q38「地域愛着」・Q39「幸福感」との相関を(1)と同様の手法で分析しました。

		相関			
		マリンスポーツ歴	幸福感	地域愛着	定住意向
マリンスポーツ歴	Pearson の相関係数	1	0.028	.194*	.408**
幸福感	Pearson の相関係数	0.028	1	.282**	.315**
地域愛着	Pearson の相関係数	.194*	.282**	1	.589**
定住意向	Pearson の相関係数	.408**	.315**	.589**	1

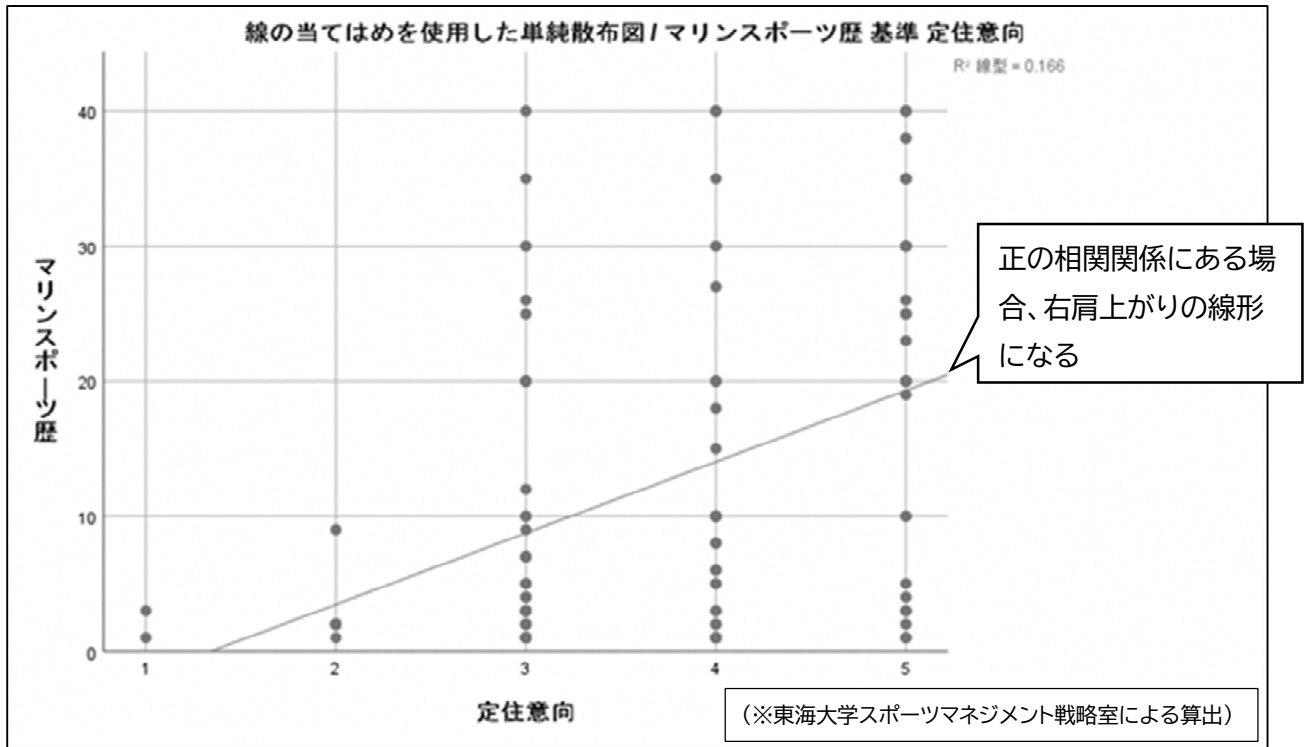
*、相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。
**、相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。

(※東海大学スポーツマネジメント戦略室による算出)

分析の結果、「幸福感」・「地域愛着」には弱い相関が、「定住意向」においては中程度の相関があることが分

かり(黄色セル)、マリンスポーツを移住・定住の一要因とする定説が客観的なデータによって補強される結果となりました。

【マリンスポーツ歴と定住意向の相関分析結果を散布図に当てはめたもの】



次に、Q9 マリンスポーツ経験の有無が「定住意向」・「地域愛着」・「幸福感」に対し、どのような影響を与えているか、各項目の5段階評価の平均値を用いて比較しました。

グループ統計量					
マリンスポーツ有無	度数	平均値	標準偏差	平均値の標準誤差	
幸福感	0(経験なし)	735	3.72	0.922	0.034
	1(経験あり)	109	4.12	0.742	0.071
地域愛着	0(経験なし)	709	3.85	0.810	0.030
	1(経験あり)	109	4.26	0.738	0.071
定住意向	0(経験なし)	735	3.27	1.084	0.040
	1(経験あり)	109	3.73	0.968	0.093

(※東海大学スポーツマネジメント戦略室による算出)

比較の結果、全項目でマリンスポーツ経験者の方が高い数値となり、経験者・非経験者の間に有意な差が見られたことから、マリンスポーツがまちづくりにおいて重要な三項目(「定住意向」・「地域愛着」・「幸福感」)に対しポジティブな影響を与えていることが分かりました。

特筆すべき点はマリンスポーツ経験者の中に中・高校生も含まれていることで、このまちの将来に向けた「ひとづくり」の面においても、マリンスポーツは重要な役割を果たすものと期待されます。

(資料編)地域スポーツコミッションについて

(1)スポーツツーリズム

スポーツツーリズムとは、スポーツの実施や観戦を伴った旅行のことで、交流人口の拡大による周辺観光や飲食・宿泊などへの経済効果、大会・イベント誘致を通じた地域の魅力の発信などが期待できます。

スポーツツーリズムは、観光庁が 2011 年に設置した「スポーツツーリズム推進連絡会議」をきっかけに新しいツーリズムの形態として一般に広まることとなりました。翌年の 2012 年に策定された「スポーツツーリズム推進基本方針」には、「魅せるスポーツコンテンツづくりとスポーツ観光まちづくり」「国際競技大会の積極的な招致・開催」「旅行商品化と情報発信の推進」「スポーツツーリズム人材の育成・活用」「オールジャパンのスポーツツーリズム推進連携組織(JSTA)の創設」が盛り込まれました。

スポーツツーリズム推進基本方針の策定以降、スポーツツーリズムに取り組む自治体は増加し、地域活性化を目的として、スポーツ合宿やスポーツ大会の誘致が各地で実施されるようになりました。

2015 年に設置された文部科学省の外局であるスポーツ庁もこの動きに注目し、2017 年に策定された第 2 期スポーツ基本計画にも「スポーツツーリズムの促進」の文言が盛り込まれました。その後、2017 年から継続して開催されている「スポーツツーリズム需要拡大のための官民連携協議会」が策定した「スポーツツーリズム需要拡大戦略」や、国内外のマーケティング調査をもとに、様々な施策が進められています。

近年では、日本各地に存在する海・山・川・湖等の自然環境下で、その地域ならではの景観・環境・文化に親しみながら体験が可能な身体活動を伴うアクティビティを楽しむ「アウトドアスポーツツーリズム」、武道や武術の見学、観戦、実技体験、施設見学等、発祥の地である日本でしか体験できないスポーツと伝統文化・精神文化が融合した希少性の高い「武道ツーリズム」、スケートボードやスポーツクライミング、パルクール、インラインスケートといった都市住民が参加しやすいスポーツである「アーバンスポーツ」を活用した「アーバンスポーツツーリズム」など、様々なスポーツツーリズムが存在しています。

(2)スポーツコミッション

高まりをみせるスポーツツーリズムを推進する組織として「地域スポーツコミッション」が日本各地で設立されています。地域スポーツコミッションとは「スポーツと景観・環境・文化などの地域資源を掛け合わせ、戦略的に活用することでまちづくりや地域活性化につなげる取組を推進する、地方公共団体とスポーツ団体、観光産業などの民間企業が一体となった組織」のことであり、スポーツ庁ではこれを「組織要件」及び「活動要件」として細分化)しており、2023 年 10 月時点で 203 の地域スポーツコミッションが存在しています。47 都道府県のうち、最も地域スポーツコミッションが設立されているのは、北海道で 22 団体、次いで鹿児島県 14 団体、静岡県 13 団体、長野県 9 団体となっています。

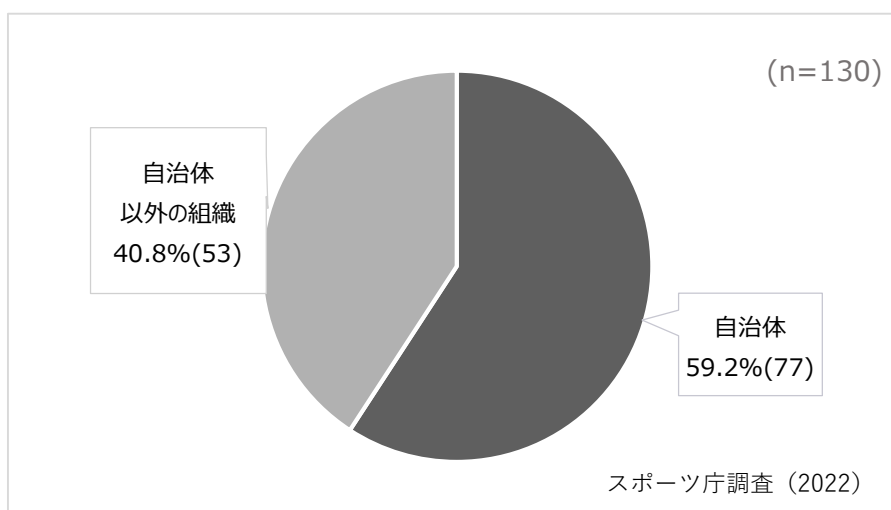
図表* 地域スポーツコミッションの要件

〔組織要件〕
<p>≪一体組織要件≫ 地方公共団体、スポーツ団体（体協、総合型等）、民間企業（観光協会、商工団体、大学、観光産業、スポーツ産業等）などが一体として活動を行っていること（実際には、一つの組織となっている場合や、複数の組織が協働している場合などがある）。</p>
<p>≪常設組織要件≫ 常設の組織であり、時限の組織でないこと。 ※ 組織の構成員の常勤・兼務は問わない。</p>
〔活動要件〕
<p>≪域外交流活動要件≫ スポーツツーリズムの推進やスポーツ合宿・キャンプの誘致など域外交流人口の拡大に向けたスポーツと地域資源を掛け合せたまちづくり・地域活性化のための活動を主要な事業の一つとしていること。</p>
<p>≪広範通年活動要件≫ 単発の特定の大会・イベントの開催及びその付帯事業に特化せず、スポーツによる地域活性化に向けた幅広い活動を年間を通じて行っていること。</p>

スポーツ庁資料(2023)より作成

地域スポーツコミッションの事務局の主体については、「自治体」が59.2%、「自治体以外の組織」が40.8%となっており、6割の団体が自治体内の任意団体として活動を行っています。自治体以外の組織に事務局があるケースとしては、単独で法人化している組織の他に、総合型地域スポーツクラブ、観光協会、体育協会(スポーツ協会)、などの別組織に事務局をおいているケースが存在します。

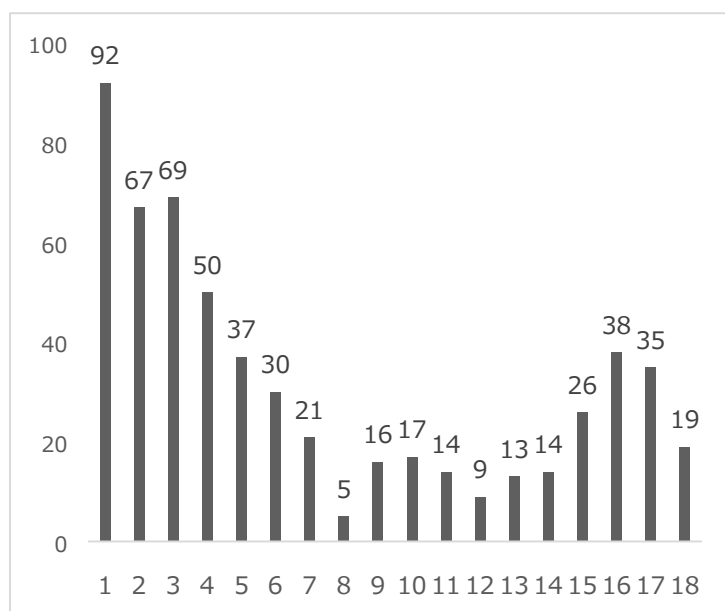
図表* 事務局の主体



地域スポーツコミッションの実施事業としては「スポーツ合宿・キャンプの誘致」を実施している団体数が92(72.4%)で最多。次いで「自主スポーツ大会・イベントの企画・実施」を実施している団体数が69(53.1%)となっています。上位の3回答は全てアウトター事業であり、スポーツツーリズムを中心としたアウトター事業に取り組む団体が多い状況にあります。

図表＊ 実施している事業

(n=130)



- 1 スポーツ合宿・キャンプの誘致
 - 2 既存のスポーツ大会・イベントの誘致
 - 3 自主スポーツ大会・イベントの企画・実施
 - 4 大会・合宿・キャンプへの補助制度の運営
 - 5 (1～4以外の) スポーツツーリズム事業の企画・実施
 - 6 スポーツ関連セミナー・研修の企画・運営
 - 7 健康づくり事業の実施
 - 8 指導者バンクの運営
 - 9 指導者の派遣
 - 10 競技者の育成（ジュニア含む）
 - 11 スポーツに関する調査・研究
 - 12 スポーツクラブの運営
 - 13 スポーツ施設の運営（指定管理者含む）
 - 14 障害者スポーツ事業の実施
 - 15 東京 2020 オリ・パラ関連事業（レガシー・ホストタウン関連事業）
 - 16 プロスポーツクラブとの連携
 - 17 DMO や観光事業者との連携
 - 18 その他
- スポーツ庁調査（2022）

(3)第3期スポーツ基本計画とスポーツコミッション

2022 年から第 3 期スポーツ基本計画がスタートしています。本計画では、今後 5 年間に総合的かつ計画的に取り組む政策として 12 の柱が掲げられていますが、そのうち「(7)スポーツによる地方創生、まちづくり」にスポーツツーリズム、地域スポーツコミッションが位置付けられています。施策目標は「全国各地域が「スポーツによる地方創生、まちづくり」に取り組み、それらを将来にわたって継続させ、各地に定着させるよう、促進する。その結果として、スポーツ・健康まちづくりに取り組む地方公共団体の割合を 2026 年度末に 15.6%から 40%とする。」とされました。第 2 期スポーツ基本計画では、目標値が訪日外国人数や消費額(スポーツツーリズム)、設置数(地域スポーツコミッション)でしたが、第 3 期ではスポーツ・健康まちづくりに取り組む公共団体の割合へと変化しています。また、地方創生においては、従来のスポーツツーリズム等のアウトナー施策に加え、地域スポーツ教室や住民運動健康事業等のインナー施策も含めて総合的に進めることが重要であるとされ、地域への「経済的効果」だけでなく、シビックプライドや子供の健全育成といった地域への「社会的効果」も着目されてきています。

(4)他地域の事例

I. 一般社団法人志摩スポーツコミッション(三重県伊勢志摩エリア／2013 年設立)

伊勢志摩エリアは、三重県の志摩半島南部に位置し、伊勢志摩国立公園や特徴的なリアス式海岸など自然資源に恵まれた地域です。志摩スポーツコミッションは、この地域資源を背景にスポーツの力を生かしたまちづくりを行うスポーツコミッションです。地元の発起人が商工会を巻き込みながら民間主導で設立し、設立以降、行政との連携を深めています。

代表的なイベントとして「伊勢志摩・里海トライアスロン大会」があり、大会事務局を担っている他、大会のボランティア管理・運営も行っています。またその他にも、志摩の美しいビーチを生かした、ビーチサッカーやビーチラグビー、サイクリングのイベントを複数開催しています。

II. スポーツタウン御殿場推進協議会(静岡県御殿場市／2022 年設立)

東京 2020 大会の関連事業を推進してきた「御殿場オリンピック・パラリンピック推進協議会」と、市のスポーツツーリズムを牽引してきた「御殿場市スポーツタウン推進連絡会」が発展的に改編することで 2022 年に発足。御殿場市産業スポーツ部スポーツ交流課を事務局とし、スポーツ協会、観光協会、商工会等、全 32 団体で構成されています。

事業を推進する体制として「スポーツツーリズム部会」「スポーツ交流部会」「サイクルスポーツのまちづくり部会」「空手のまちづくり部会」の 4 つの部会が組成されています。参画団体は 4 つの部会のいずれかに所属し、事業の磨き上げを実施しています。東京 2020 大会で培われた官民連携の協力体制を継承し、構成団体を巻き込んだ事業推進が実現している点は、他地域の参考となる優れた点です。

(資料編)地域スポーツコミッションデータ集

0)調査概要

調査名 :地方創生・まちづくりに関わる人材の全体像把握調査(令和4年度スポーツ庁事業)

調査目的:地域スポーツコミッションの組織体制及び関わる人材の全体像の把握

調査手法:質問紙とWEBの併用

調査対象:2022年4月時点でスポーツ庁が把握していた地域SC 187団体

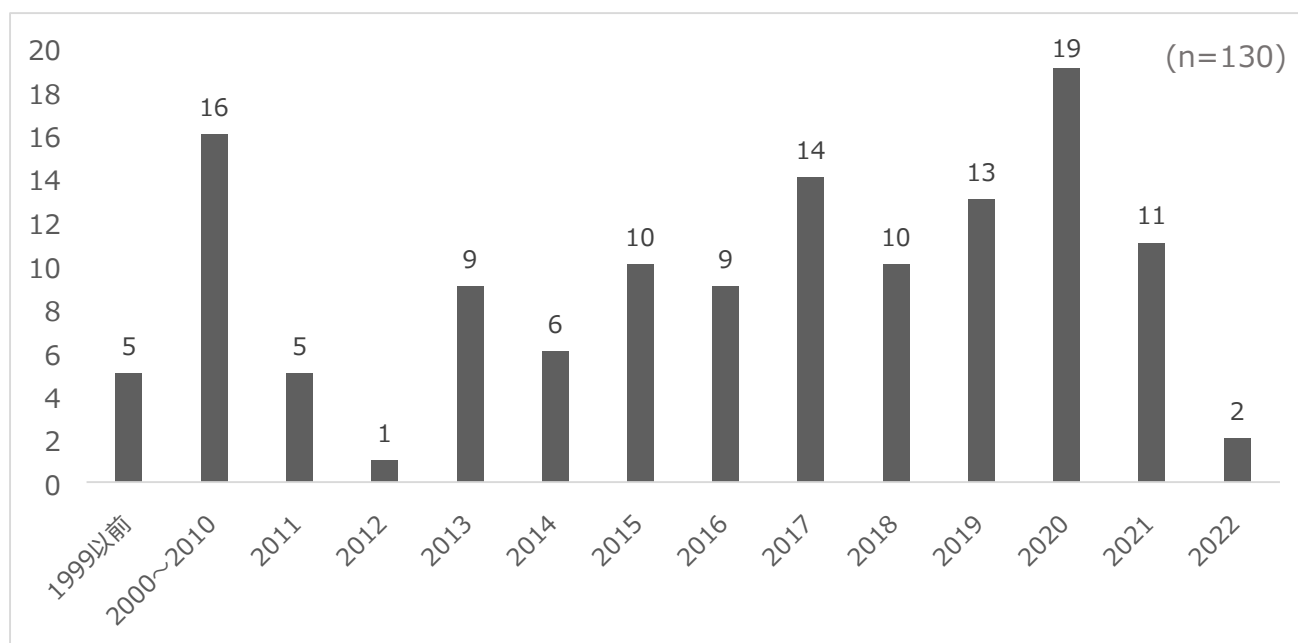
調査期間:2022年9月~12月

調査票回収数:130(回収率69.5%)

1)設立年

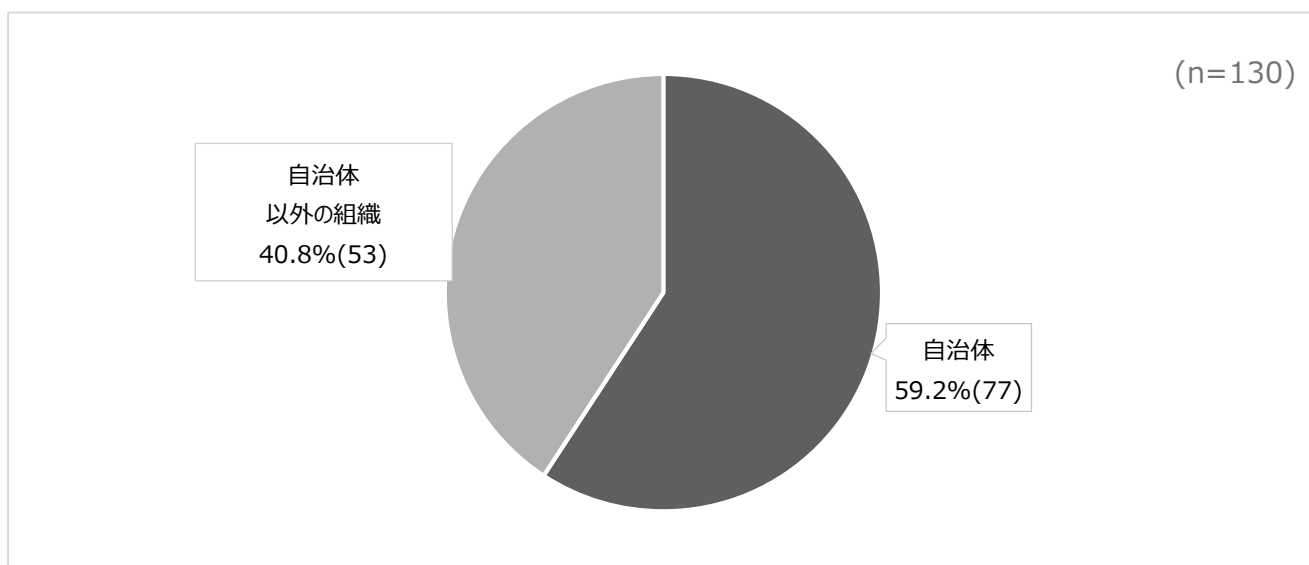
日本初の地域SCは「さいたまスポーツコミッション」(2011設立)

2013年度以降、設立に向けた動きが活発になり、2020年度には過去最多の19団体が設立された。



2)事務局の主体

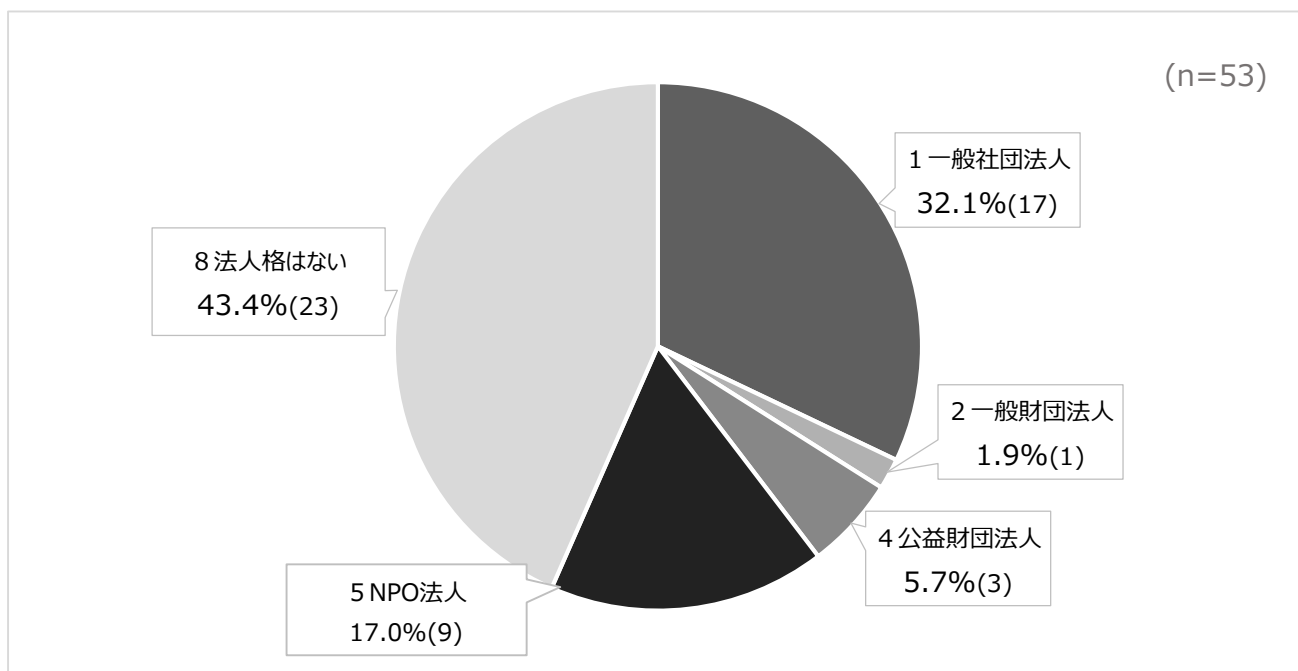
事務局が置かれているところは「自治体」が 59.2%、「自治体以外の組織」が 40.8%である。



3)法人格の有無(自治体以外の組織)

法人格をもつ地域 SC は回答のあった 130 団体のうち約1/4(23.1%)であった。

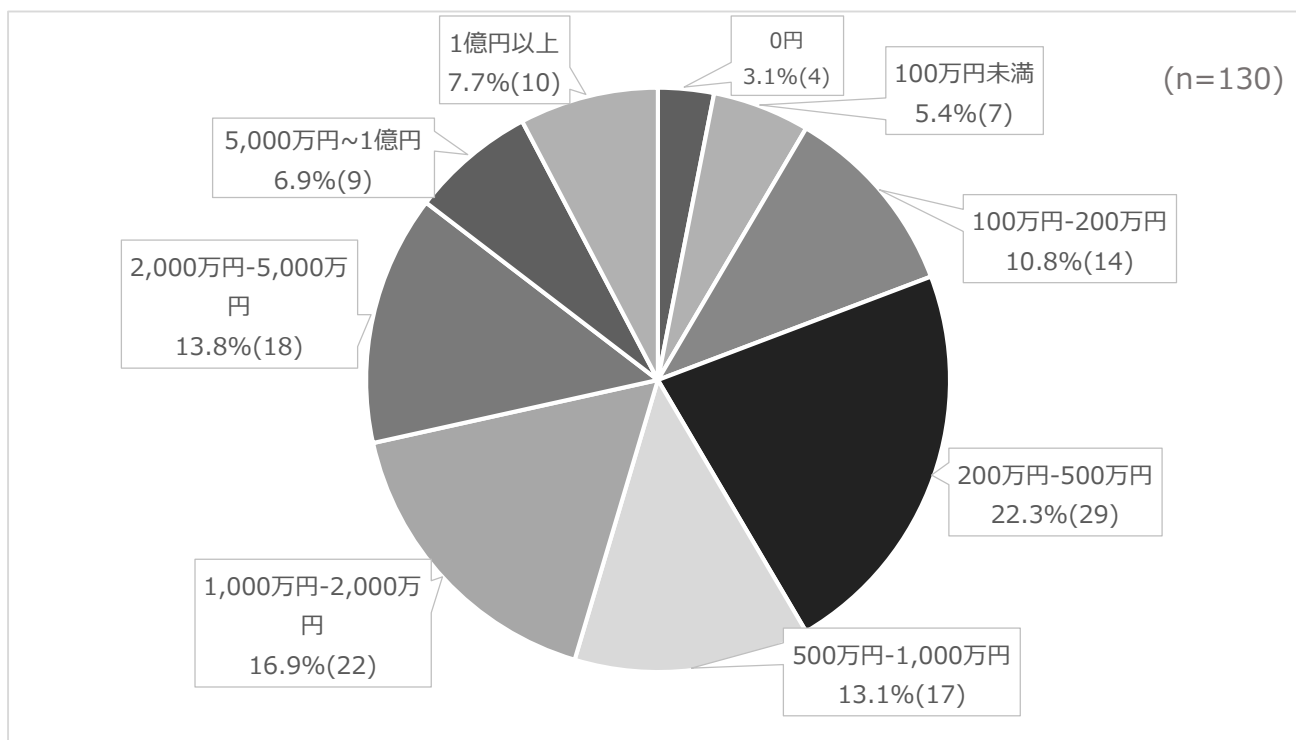
法人格の内訳は「一般社団法人」が最も多く次いで「NPO 法人」となっている。



4) 予算規模

地域 SC の予算規模は「200 万円以上 500 万円未満」が 22.3%で最も多い。

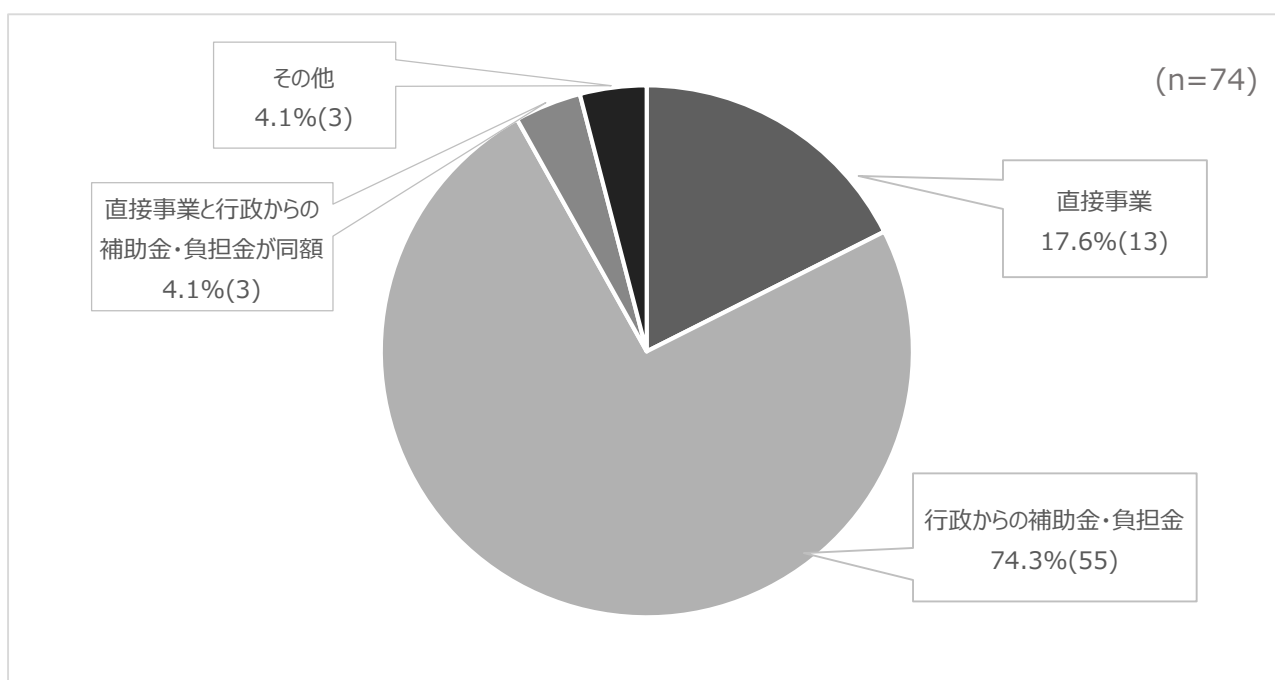
回答のあった 130 団体の平均は 3,750 万円であるが、中央値は 782 万円であった。



5) 最も大きな収入源(自治体内事務局)

最も大きな収入源は「行政からの補助金・負担金」がもっと多く、74.3%。

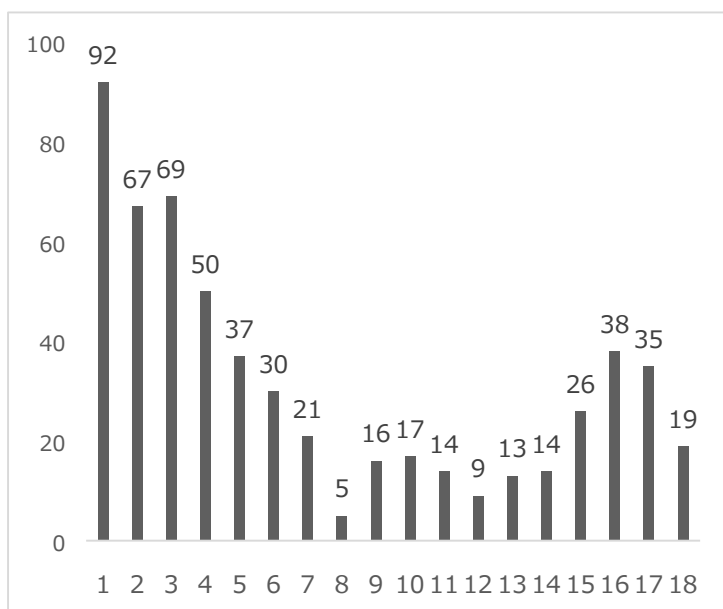
次いで「直接事業」が 17.6%であった。



6)実施している事業

「スポーツ合宿・キャンプの誘致」を実施している団体数は 92(72.4%)で最多。

インナー事業よりもアウトター事業を行っている団体が多い。



- (n=130)
- 1 スポーツ合宿・キャンプの誘致
 - 2 既存のスポーツ大会・イベントの誘致
 - 3 自主スポーツ大会・イベントの企画・実施
 - 4 大会・合宿・キャンプへの補助制度の運営
 - 5 (1~4 以外の) スポーツツーリズム事業の企画・実施
 - 6 スポーツ関連セミナー・研修の企画・運営
 - 7 健康づくり事業の実施
 - 8 指導者バンクの運営
 - 9 指導者の派遣
 - 10 競技者の育成 (ジュニア含む)
 - 11 スポーツに関する調査・研究
 - 12 スポーツクラブの運営
 - 13 スポーツ施設の運営 (指定管理者含む)
 - 14 障害者スポーツ事業の実施
 - 15 東京 2020 オリ・パラ関連事業 (レガシー・ホストタウン関連事業)
 - 16 プロスポーツクラブとの連携
 - 17 DMO や観光事業者との連携
 - 18 その他

(資料編)計画策定の経過

1)下田市スポーツ推進計画策定委員会委員名簿

No	委員区分	所属等	氏名	備考
1	スポーツ 関連団体等	下田市体育協会 事務局長	小川 昭午	
2		下田市振興公社 公園管理課長	平尾 哲明	
3		下田市観光協会 事務局長	藤原 徹佳	
4		下田市スポーツ少年団 本部長	山田 吉利	
5	スポーツ推進委員	下田市スポーツ推進委員会 委員長	杉山 高重	
6	学校長推薦	下田中学校 教諭	渡井 哲弘	
7	市職員	下田市企画課長	鈴木 浩之	
8		下田市観光交流課長	田中 秀志	
9		下田市教育委員会 学校教育課長	平川 博巳	
10	有識者等	地域おこし協力隊(アウトドアスポーツ部門)	山口 智史	
11		地域おこし協力隊(スポーツ振興部門)	須藤 航太	
12		吉佐美スポーツツーリズム	蒔田 俊史	元・地域おこし協力隊
13	アドバイザー	東海大学体育学部 准教授	押見 大地	
14	オブザーバー	日本スポーツツーリズム推進機構	滝田 佐那子	スポーツ庁指定支援事業者
	事務局	下田市教育委員会 生涯学習課		

2)策定までの経過

年月日	内容
令和6年7月24日	第1回 下田市スポーツ推進計画策定委員会 ・骨子案の提示 ・策定スケジュールの確認 ・市民アンケートの内容協議
令和6年10月11日～31日	市民アンケート実施 下田市体育協会加盟団体への意見聴取(書面)
令和6年12月20日	第2回 下田市スポーツ推進計画策定委員会 ・市民アンケート結果について ・計画素案についての協議
令和7年2月 日～3月 日	「下田市スポーツ推進計画」策定に係るパブリックコメント
令和7年3月 日	第3回 下田市スポーツ推進計画策定委員会 ・パブリックコメント結果について ・最終案の確認
令和7年3月 日	下田市スポーツ推進計画策定～公表

下田市スポーツ推進計画

発行日:令和7年3月

発行:下田市教育委員会 生涯学習課

〒415-0024 下田市四丁目6-16

TEL:0558-23-5055 FAX:0558-23-5176

MAIL:syougai@city.shimoda.lg.jp